

**メキシコ合衆国
南南協力強化支援プロジェクト
終了時評価報告書**

平成14年12月
(2002年)

国際協力事業団
中南米部

地 三 中
J R
03-01

**メキシコ合衆国
南南協力強化支援プロジェクト
終了時評価報告書**

平成14年12月
(2002年)

国際協力事業団
中南米部

目 次

序 文
略語表
団長所感

評価調査結果要約表

第1章 終了時評価調査団の派遣	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的	1
1-2 調査団の構成と調査期間	2
第2章 終了時評価の方法	3
2-1 評価手法	3
2-2 情報収集	3
2-3 評価項目	3
第3章 総 括	6
3-1 投入の実績	6
3-2 プロジェクトの実施プロセス	7
3-3 プロジェクトの主な成果	8
3-4 残された問題点と課題	9
第4章 評価結果	11
4-1 妥当性	11
4-2 有効性	13
4-2-1 プロジェクト目標の達成度	13
4-2-2 個々の成果の達成度合い	14
4-3 効率性	17
4-4 インパクト	17
4-5 自立発展性	18
4-6 結 論	18

第5章 教訓と提言	19
5-1 提言	19
5-2 教訓	19

付属資料

1. 調査日程	25
2. 主要面談者	26
3. ミニッツ	28
4. 修正後PDM（和文）	65
5. スタッフアンケート調査結果	67
6. その他参考となるデータ	71
7. 協議議事録	72

序 文

メキシコ合衆国南南協力支援プロジェクトは、平成12年から3年間にわたり、メキシコ外務省国際協力庁（IMEXCI）の組織能力強化と南南協力の能力強化を目的として、協力が開始されました。

このたび、国際協力事業団は、本件実施に係る討議議事録に基づく協力期間が、平成15年6月をもって終了するのに先立ち、これまでの協力内容などの評価を実施し、本分野における協力への提言を行うため、平成14年12月5日から12月13日までの日程で、終了時評価調査団を派遣しました。

本報告書は、上記調査の結果を取りまとめたものです。ここに本調査にご協力を賜りました関係各位に深甚なる謝意を表します。

平成14年12月

国際協力事業団
理事 鈴木 信毅

略 語 表

CENAPRED	Centro Nacional de Prevención de Desastres	国立防災センター
CENICA	Centro Nacional de Investigación y Capacitación Ambiental	環境研究研修センター
COCO	Comité Conjunto	プロジェクト管理会議
DCBCAC	Dirección de Cooperación Bilateral con Centro América y el Caribe	(外務省科学技術協力局) 中米カリブ二国間協力部
DGCTC	Dirección General de Cooperación Técnica y Científica	(外務省) 科学技術協力局
DPEN	Dirección de Programas de Cooperación de Ejecución Nacional	(外務省科学技術協力局) 国内事業部
IMEXCI	Instituto Mexicano de Cooperación Internacional	メキシコ国際協力庁
JICA	Japan International Cooperation Agency	国際協力事業団
PCM	Project Cycle Management	プロジェクト・サイクル・マ ネージメント
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マ トリックス
PDMe	Project Design Matrix for Evaluation	評価用プロジェクト・デザイ ン・マトリックス
SICOI	Sistema de Cooperación Internacional	国際協力データベース
SIMEXCI	Sistema Mexicana de Cooperación Internacional	メキシコ国際協力システム
SRE	Secretaría de Relaciones Exteriores	メキシコ外務省

団 長 所 感

- (1) メキシコ合衆国（以下、「メキシコ」と記す）にて、2000年7月から開始した「南南協力強化支援プロジェクト」の終了を2003年6月末に控え、JICAプロジェクト評価ガイドラインに従い、プロジェクトの終了時評価を行った。調査期間は12月5日から13日までで、プロジェクトのメキシコ側実施機関である外務省科学技術協力局（Dirección General de Cooperación Técnica y Científica：DGCTC）と、12月5日から13日までの調査期間中に2回の合同評価を行い、評価結果については、ミニッツ作成のうえ、署名交換した。

- (2) 本プロジェクト期間中には、2回のメキシコ外務省改革により当初のメキシコ国際協力庁（Instituto Mexicano de Cooperación Internacional：IMEXCI）が、DGCTCに組織改編し、また途中2回組織の長が交替した。このような外部条件による組織体制の変更に起因して、DGCTCにおいてプロジェクト実施に必要な人員や投入が適切に配分されず、当初計画の活動の一部が達成されなかった。しかしながら、プロジェクトにより導入されたプロジェクト・サイクル・マネージメント（Project Cycle Management：PCM）手法は、DGCTC職員の国際協力案件管理能力の向上を通じて、組織能力の強化に貢献しており、立ち上げられたPCMグループが今後、組織内での位置づけが強化され、活性化することで、更に組織強化が進むことが期待される。評価結果としては、メキシコにおいて南南協力推進の中核であるDGCTCを強化支援する妥当性は高いものの、効果・効率性・自立発展性についてはマイナス要素の多い評価となった。しかしながら、第2回合同評価の際に、メキシコ側より、職員の頻繁な異動による影響を緩和するための恒久的な研修の実施と、南南協力パイロット案件への継続的な参画が表明された。

- (3) 評価調査を通じて、DGCTCロサノ局長は、エルサルバドル、ニカラグア等において実施準備段階にある日本・メキシコ三角協力パイロット案件の実施に積極的に取り組むことを述べ、本プロジェクトが終了したあとも、パイロット案件への日本の協力が継続し、日本・メキシコの連携が深まることへの期待を表明した。さらに、両国間の連携により、パイロット案件から、より包括的な協力を実現したいこと、そのような協力においては、従来のような短期的な専門家派遣のみではなく、メキシコ側による研修員受入れ、機材供与も併せて実施する予定である旨の説明があり、南南協力を推進していく姿勢がうかがえた。また、表敬を行った外務省経済関係・国際協力次官局ハキム次官からは、予算の枠組みを新しくつくり、南米3か国で実施中であるパートナーシッププログラムのような新しい日本・メキシコ間の南南協力連携体制を構築したいという意思表示はなかった。このようなことから、メキシコとの南南協力においては、両国から受益国に対する各々の二国間協力の投入を効率的に組み合わせ、日本・メキシコ三角

協力パイロット案件での協力を推進していくことが望まれる。

- (4) DGCTCは、本プロジェクトが当初カウンターパート機関としていたIMEXCIの後継組織であり、当初IMEXCIに含まれていた教育・文化交流を扱う部門が他部局に移管されることで、科学・技術協力に特化する組織であること、特に中米カリブ地域に対する水平協力・南南協力のメキシコ側実施機関であることの位置づけがより明確になった。調査団が別途視察を行った環境研究研修センター（Centro Nacional de Investigación y Capacitación Ambiental：CENICA）、及び国立防災センター（Centro Nacional de Prevención de Desastres：CENAPRED）の関係者からは、これら両センターは、過去の協力により蓄積された人材・インフラを活用して、南南協力を積極的に取り組む十分な意欲と能力があること、またこれら専門技術機関にとって、南南協力の窓口機関としてのDGCTCの調整機能が不可欠であることが確認できた。

評価調査結果要約表

I. 案件の概要																																					
国名：メキシコ	案件名：南南協力強化支援プロジェクト																																				
分野：計画・行政	援助形態：技術協力プロジェクト（旧チーム派遣）																																				
所轄部署：中南米部中米・カリブ課	協力金額（評価時点）：																																				
協力期間	(Minutes) : 2000年7月1日～2003年6月30日	先方関係機関：外務省科学技術協力局（DGCTC）																																			
	(延長) :	日本側協力機関：																																			
	(F/U) :	他の関連協力：国別特設研修																																			
	(E/N)（無償）:																																				
<p>1. 協力の背景と概要</p> <p>文化・歴史・言語を共有する中南米地域では、特に1990年代に入り、域内水平(南南)協力が活発に推進された。これを受け、JICAは、1997年2月から1998年5月まで企画調査員を派遣し、当該技術協力提供システムの問題点の分析、及び両国の協力における連携の可能性を検討してきた。2000年6月には、これまでの南南協力実施のための体制の拡充、協力の質的向上、受入国の経済社会開発への貢献に取り組もうとするメキシコ政府の意欲を受け、組織能力の向上に資するチーム派遣「南南協力強化支援」を開始した。</p>																																					
<p>2. 協力内容</p> <p>(1) 上位目標 メキシコが、外務省科学技術協力局（Dirección General de Cooperación Técnica y Científica：DGCTC）を通じて、中南米・カリブ地域の開発に寄与する。</p> <p>(2) プロジェクト目標 DGCTCの組織能力が向上し、また南南協力実施能力が強化される。</p> <p>(3) 成果</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 国際協力案件の形成・実施・モニタリング・評価システムを確立し、適用する。 ② 国際協力の運営管理のためのデータベースを構築する。 ③ 関係職員の人材を育成する。 ④ メキシコ国際協力システム（Sistema Mexicana de Cooperación Internacional：SIMEXCI）の活用を促進する。 ⑤ 日本・メキシコ第三国連携によるパイロットプロジェクトの実施体制を確立する。 <p>(4) 投入（評価時点）</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td colspan="4">日本側</td> </tr> <tr> <td style="width: 30%;">長期専門家派遣</td> <td style="width: 10%;">4名</td> <td style="width: 20%;">機材供与</td> <td style="width: 40%;">約400万円（1米ドル＝120円）</td> </tr> <tr> <td>短期専門家派遣</td> <td>4名</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>研修員受入れ</td> <td>20名</td> <td>その他</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="4">相手国側</td> </tr> <tr> <td>カウンターパート配置</td> <td>32名</td> <td>機材購入</td> <td></td> </tr> <tr> <td>土地・施設提供、オフィススペース</td> <td></td> <td>ローカルコスト負担</td> <td>約8万9,000ペソ（JICA概算・現地通貨）</td> </tr> <tr> <td colspan="4">その他、日本・メキシコ第三国連携によるパイロットプロジェクトの実施経費</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: right;">約8,792米ドル（JICA概算）</td> </tr> </table>		日本側				長期専門家派遣	4名	機材供与	約400万円（1米ドル＝120円）	短期専門家派遣	4名			研修員受入れ	20名	その他		相手国側				カウンターパート配置	32名	機材購入		土地・施設提供、オフィススペース		ローカルコスト負担	約8万9,000ペソ（JICA概算・現地通貨）	その他、日本・メキシコ第三国連携によるパイロットプロジェクトの実施経費				約8,792米ドル（JICA概算）			
日本側																																					
長期専門家派遣	4名	機材供与	約400万円（1米ドル＝120円）																																		
短期専門家派遣	4名																																				
研修員受入れ	20名	その他																																			
相手国側																																					
カウンターパート配置	32名	機材購入																																			
土地・施設提供、オフィススペース		ローカルコスト負担	約8万9,000ペソ（JICA概算・現地通貨）																																		
その他、日本・メキシコ第三国連携によるパイロットプロジェクトの実施経費																																					
約8,792米ドル（JICA概算）																																					

II. 評価調査団の概要		
調査者	(担当分野：氏名／所属) 団長／総括：川路 賢一郎 国際協力事業団中南米部 部長 協力評価：三田村 達宏 国際協力事業団中南米部中米・カリブ課 評価分析：シーク 美実 (財)国際開発センター	
調査期間	2002年12月5日～12月13日	評価種類：終了時評価
III. 評価結果の概要		
1. 評価結果の要約		
(1) 妥当性		
<p>プロジェクト期間中にカウンターパート（C/P）の組織改編が行われ、組織名もメキシコ国際協力庁（Instituto Mexicano de Cooperación Internacional：IMEXCI）からDGCTCとなったが、メキシコのODAにおいてIMEXCIが技術協力を行うという役割及び本プロジェクトの目標はDGCTCにも受け継がれたこと、また、南南協力支援は、我が国のODA中期政策のなかで積極的に取り組むべき援助手法のひとつとされており、JICAの対メキシコ国別事業実施計画においても重点事項のひとつとして取り上げられていることなどから、本プロジェクトの妥当性は高いと判断される。</p>		
(2) 有効性		
<p>予定されていた活動の一部が遅れ、成果が十分に達成されていないことから、有効性は低いと判断される。ただし、総体的には、プロジェクト・サイクル・マネージメント（Project Cycle Management：PCM）手法の取得を通じて、案件審査を体系的かつ客観的に判断できるようになっていることが確認されており、プロジェクトは着実にDGCTCの組織強化につながっている。</p>		
(3) 効率性		
<p>日本側の専門家及び機材投入は、当初計画のとおり効率的に行われた。しかし、データベースシステムは納入後、技術的あるいは構造的不一致により、導入に際して不具合が生じた。その後、DGCTCは、当初JICAにより提案されたPCMに基づくプロジェクト管理手法の考え方を受け継いだ新しいデータベースシステム〔国際協力データベース（Sistema de Cooperación Internacional：SICOI）〕を開発している。SICOIは、現在個別データの入力段階にあり、今後プロジェクトの目標達成に貢献するかどうかは、今後の課題である。また、DGCTC側の投入である人材及び付加価値税（VAT）の支払いが、外部要因の影響もあり、プロジェクト実施過程において一部十分に行われていなかったことも確認された。</p>		
(4) インパクト		
<p>プロジェクトの成果はいまだ達成されていないため、現在においてインパクトを測ることは時期尚早と判断される。</p>		
(5) 自立発展性		
<p>DGCTCが予期しない人事異動への対応策として、国際協力に関する恒常的な研修を実施する予定であること、DGCTC職員がプロジェクト活動の参加に積極的な姿勢を見せていること、さらに、日本・メキシコ連携パイロットプロジェクトへのコミットメントを維持することも表明されていることから、自立発展性はあると結論づけられる。</p>		

2. 効果発現に貢献した要因

(1) 計画内容に関すること

特になし。

(2) 実施プロセスに関すること

2001年7月の中間見直し以降、定期的にステアリング・コミッティ〔プロジェクト管理会議 (Comité Conjunto : COCO)〕を開催し、プロジェクト運営や今後の展開に関する議論・諸問題への対応等について協議されるようになったことが、プロジェクトの効率的実施につながった。また、2002年9月に設立されたPCMグループが、職員全体のプロジェクトへの参画意欲を促進している。

3. 問題点及び問題を惹起した要因

(1) 計画内容に関すること

DGCTCとして共通のプロジェクトの運営・管理・評価システムの構築をめざしたが、DGCTCは日本以外のドナーとも関連が深いため、共通のシステムの構築はDGCTCにはなじまず、個別の部署で対応することが望ましいことが判明した。

(2) 実施プロセスに関すること

2000年12月のフォックス政権の誕生に伴い、IMEXCI (現在のDGCTC) の組織改編やこれまで国際協力を中心的に担ってきた関係者が交替し、南南協力を行うメキシコ側の体制に変化が生じた。さらに、外務省内の機構改編により、IMEXCIは外務省外局から外務省経済関係・国際協力次官局内の1局 (DGCTC) となり、人員の削減も重なり、従来に比べて国際協力を実施する体制が弱体化し、プロジェクト実施中において日本側のニーズに対してメキシコ側が十分な対応ができない状況があった。また、プロジェクト実施期間中に、局長が2回交替していることもプロジェクトの活動にマイナスの影響を与えた。

4. 結 論

3年間にわたり実施されてきたプロジェクトの目標は、当初計画されていた多くの活動の実施が遅延したことから、いまだ達成に至っていない。しかしながら、DGCTCの組織強化の観点からは、プロジェクトにより技術移転されたPCM手法が、DGCTC職員の国際協力案件管理能力の向上に生かされ、ひいては組織能力の強化に貢献していることが確認された。今後は、PCMグループの活動が活性化することで、組織強化が更に進むことが期待される。また、南南協力の実施強化の観点からも、実際に2件の日本・メキシコ連携パイロットプロジェクトが準備段階に入っており、着実に目標が達成されつつある。将来的なプロジェクト目標の達成の見込みは、DGCTCの本件プロジェクトに対する組織的取り組みの度合いに大きく委ねられていると判断される。

5. 提 言

(当該プロジェクトに関する具体的な措置、提案、助言) 評価結果を踏まえて、以下を提言する。

(1) PCMグループの活用の向上

DGCTCの組織能力の強化を図るにあたり、PCMグループが重要な役割を果たすこととなるため、今後はPCMグループの組織としての位置づけをより明確にするとともに、PCMグループの活動を促進する必要がある。また、PCMグループメンバーの、日常業務とPCMグループの活動業務との調整が不可欠である。

(2) ノウハウの蓄積と活用

本プロジェクトを通じて日本人専門家より移転されたノウハウ及び実務経験は、プロジェクト目標を達成するために必要不可欠なものである。将来の予期せぬ人事異動に備え、これらのノウハウを体系的に蓄積していくことをこれまで以上に心掛ける必要がある。

(3) データベースシステムと案件管理の連携

案件管理において、データベースシステムの活用は極めて重要である。したがって、新しく開発されたSICOIの効果的な活用について、定期的に確認されることが重要である。

6. 教訓

(当該プロジェクトから導き出された他の類似プロジェクトの発掘・形成、実施、運営管理に参考となる事柄)

(1) 人事の安定、ノウハウ及び経験の蓄積、政策の一貫性等は、外部要因として取り扱うことが多いが、組織強化のプロジェクトでは重要な要素となる。外部要因として取り扱う前に、これらが実現しない可能性をあらかじめある程度想定し、それらへの対応策をプロジェクトのデザイン段階で検討することが必要である。

(2) システム開発の協力にあたっては、日本側投入の派遣専門家（システムエンジニア）が単なるシステム開発の役務提供で終わることのないように、先方実施機関側にシステムエンジニアが配置されることを前提として、システム設計（ニーズの把握、ユーザーの立場に立った設計）、システム開発（実施機関で運用管理可能な技術レベル）、システム導入のための研修実施にいたるまで、十分な協力期間を確保することが重要である。

(3) 対象となるC/Pの組織構造、能力を十分に勘案しつつ、適正なプロジェクトスコープについて十分に検討する必要がある。

(4) C/Pの体制、当該国での役割、周辺関係機関との関連性などを総合的に調査・分析したうえで、プロジェクトの実施体制を検討することが重要である。

(5) 組織強化のプロジェクトであったが、JICA組織と類似する組織機能の一面のみに注目してプロジェクトを実施することは危険であったと考える。単純にメキシコ版JICAをつくる、JICAコピー版をつくるというのではなく、互いの組織の背景・文化というものの違いを協力者・受け手側の両者がよく理解したうえで、協力の範囲を慎重に設定し、受け手側体制内でコンセンサスを醸成することが必要である。

(6) プロジェクト開始当初、チーム派遣（旧ミニプロジェクト）という形で、通常のプロジェクトよりも協力期間・投入量が限られた協力スキームであった。このような限定的な協力規模である場合、これに応じたプロジェクト目標と協力範囲を見極めることが重要である。

第1章 終了時評価調査団の派遣

1-1 調査団派遣の経緯と目的

文化・歴史・言語を共有する中南米地域では、特に1990年代に入り、域内水平(南南)協力が活発に推進された。これに先駆け、メキシコ合衆国(以下、「メキシコ」と記す)政府は、1987年以来、毎年およそ500件の協力案件を実施し、南南協力及び受入れ諸国との関係の強化を図っていた。

これを受け、JICAは、1997年2月から1998年5月まで企画調査員を派遣し、当該技術協力提供システムの問題点の分析及び両国の協力の連携の可能性を検討してきた。

また、1998年3月には、プロジェクト方式技術協力「メキシコ南南協力技術協力センター」の検討のため、基礎調査団が派遣された。しかしながら、この調査の段階では、メキシコ国際協力庁(Instituto Mexicano de Cooperación Internacional: IMEXCI)は発足したばかりであり、プロジェクト方式技術協力として採択するためには、十分な準備と段階を踏んで、案件として醸成することが必要であるとの結論が出された。したがって、1998年7月から「南南協力支援」専門家をIMEXCIに派遣した。

2000年6月には、これまでの南南協力実施のための体制の拡充、協力の質的向上、受入国の経済社会開発への貢献に取り組もうとするメキシコ政府の意欲を受け、組織能力の向上に資するチーム派遣「南南協力強化支援」を、2000年7月から2003年6月の期間で実施することが決定された。

2001年初頭におけるIMEXCIの組織改革、及びプロジェクトの実施に影響を与えるその他の変化に対応すべく、JICA及びIMEXCIはプロジェクトの見直しを行い、2001年7月11日に当初のプロジェクト・デザイン・マトリックス(Project Design Matrix: PDM)を修正することに合意した。

また、2002年8月の外務省内の機構改革により、IMEXCIも、外務省科学技術協力局(Dirección General de Cooperación Técnica y Científica: DGCTC)に改編されたが、技術協力を担当する元IMEXCIのメキシコの国際協力における役割は、DGCTCに受け継がれた。

本調査では、プロジェクト開始時から評価時までのプロジェクト活動実績について整理し、評価5項目の観点から関係者と協議・分析のうえ評価を実施し、目標の達成度を判定した。さらに、今後の協力方針について先方と協議するとともに、評価結果から今後の協力のあり方や、実施方法の改善に役立つ教訓や提言を引き出すことを目的として実施された。

1-2 調査団の構成と調査期間

(1) 調査団の構成

担 当	氏 名	所 属
団長／総括	川路 賢一郎	国際協力事業団中南米部 部長
協力評価	三田村 達宏	国際協力事業団中南米部中米・カリブ課
評価分析	シーク 美実	(財)国際開発センター

(2) 調査期間

2002年12月5日～13日までの9日間（付属資料1参照）。

第2章 終了時評価の方法

本調査は、下記のとおりJICAプロジェクト・サイクル・マネジメント（JPCM）手法により実施した。

2-1 評価手法

合同評価委員会はPCM手法に基づき、以下の手順で評価を行った。

- (1) 合同評価委員会は、評価用プロジェクト・デザイン・マトリックス（PDMe）をまず検討する。PDMeは評価対象のプロジェクトのPDMを検討し、プロジェクトにおける投入、活動、成果、プロジェクト目標、上位目標、最終目標等について、これまでに変更された部分を含めて見直したものである。このPDMeは、評価実施者がプロジェクトの業績や見通しを確認すること、評価5項目における実績や見通しを検討することの基本となる。
- (2) 合同評価委員会は、PDMeで述べられているプロジェクト目標や期待される成果が、どの程度達成されたのか、また、終了時までどの程度達成される見込みなのかを確認する。
- (3) 合同評価委員会は、「2-3 評価項目」で説明する評価5項目に基づいて評価する。

2-2 情報収集

評価に用いた資料は以下のとおりである。

- ① プロジェクト実施過程、又は以前に日本・メキシコ双方が合意した文書
- ② 2000年6月22日のミニッツ
- ③ 2001年7月11日のミニッツ及びプロジェクト関連資料
- ④ 日本人専門家及びカウンターパート（C/P）に対する質問状への回答
- ⑤ インタビュー結果
- ⑥ PDMe
- ⑦ プロジェクト管理会議（Comité Conjunto：COCO）の議事録

2-3 評価項目

本評価は、以下の評価5項目の視点に従って評価を行った。

(1) 妥当性

プロジェクト目標、上位目標、最終目標がメキシコの開発政策やC/Pのニーズに一致し

ているかという観点から評価した。

評価項目	調査内容
目標と当該国の開発政策との合致	・当該国の国家開発計画や国際協力政策とプロジェクト目標との整合性と一貫性
我が国の協力方針との合致	・ODA中期政策との整合性 ・対メキシコ国別事業実施計画との整合性
受益者ニーズとの整合性	・プロジェクトで移転された技術は、すべての受益者のニーズに合致していたか（合致していない場合は、どのような受益者のニーズに合致していないのか、その理由等）

(2) 有効性

プロジェクト目標の達成度合いと成果との関連性を評価した。

評価項目	調査内容
プロジェクト目標の達成度合いは期待された効果であったか	・DGCTCの組織能力強化の度合い ・南南協力実施能力が強化された度合い
上記のプロジェクト目標達成度合いは、プロジェクトの「成果」によってもたらされたか	・DGCTCの南南協力実施能力が強化されたのは、本プロジェクト実施の結果か
プロジェクトの成果以外に目標達成に影響を与えた要因は何か	・阻害要因、促進要因は何か

(3) 効率性

投入がどれだけ成果として現れたかを測ることにより、投入と成果の生産性を評価した。

評価項目	調査内容
日本側の投入（人員配置、機材供与、本邦研修）	・専門家の資質、派遣期間、派遣タイミング ・機材の到着時期、数量、質、活用度 ・本邦研修の内容、期間
メキシコ側の投入（人員配置、予算配慮、資材供与）	・C/Pの資質、人数、配置時期 ・供与された資材の質

(4) インパクト

プロジェクト目標レベルや上位目標レベルで起った直接的、間接的な正負の効果を評価した。このインパクトには、計画当初に予測されなかった効果も含むものである。

評価項目	調査内容
技術的側面	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトで導入した活動が受益者に与えたインパクト ・プロジェクトで導入した技術が非受益者、非受益地域へ与えたインパクト
制度的側面	<ul style="list-style-type: none"> ・他の関連組織、グループに与えたインパクト
社会・文化的側面	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的地位の向上 ・コミュニティー、組織における変化

(5) 自立発展性

プロジェクト実施により得られた便益が、プロジェクト終了後も自立的に続くことが可能かどうか、制度面、財政面、技術面、社会・文化面、運営管理等の横断的視点から評価した。

評価項目	調査内容
制度的側面	<ul style="list-style-type: none"> ・政策的支援 ・人員配置、定着状況 ・類似組織との連携
財政的側面	<ul style="list-style-type: none"> ・必要経費の資金源
技術的側面	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトで導入した技術や活動の定着度
社会・文化的側面	<ul style="list-style-type: none"> ・反対派グループの有無
運営管理の側面	<ul style="list-style-type: none"> ・DGCTCの運営管理体制及びレベル

第3章 総括

3-1 投入の実績

(1) 日本側の投入実績

日本側（JICA）の投入は、専門家派遣、機材供与、研修員受入れからなる。専門家派遣としては、4人の長期専門家と延べ4人の短期専門家が派遣された。

投入形態	氏名	指導科目	投入期間
長期専門家	下田 道敬	国際協力システム	2000年7月30日～ 2001年7月29日
	長町 昭	国際協力案件管理	2001年3月29日～ 2003年3月28日
	榎下 信徹	国際協力政策（三角協力）	2001年7月30日～ 2003年7月29日
	菊池 和則	国際協力システム	2002年3月29日～ 2003年6月30日
短期専門家	堀 恒喜	データベースシステム	2000年10月18日～ 2001年3月14日
	堀 恒喜	データベースシステム	2001年7月1日～7月29日
	野口 純子	国際協力指標策定	2000年5月8日～5月20日
	岡田 尚美	国際協力案件評価	2000年8月10日～10月28日
	予定	国際協力指標策定	予定
	予定	国際協力案件評価	予定

機材供与としてデータベースシステムが供与された。その総額はおよそ400万円（1米ドル＝120円で計算）になる。

日本への研修員受入れは次のとおり、延べ20人である。なお、プロジェクト終了時まで更に1名が研修員として受け入れられる予定である。

表 3 - 1 本邦研修参加者一覧

年度	研修期間	研修参加者名	所 属
1999	9 - 27/Nov	David Regalado Jiménez	Sub-director, Dept. of Bilateral Cooperation for Central America and the Caribbean, SRE
		María Teresa Cabrero Díaz	Analyst, Mexican Commission of Cooperation for Central America and the Caribbean,
		Sara Esther Ramos Ruiz	Analyst, Mexican Commission of Cooperation for Central America and the Caribbean,
		Simón Gregorio Trejo Santos	Sub-director, Ministry of Health
		Gabriel Sirnes Mancera	Sub-director, Dept. of Regional Cooperation for Central America, SRE
2000	7 /Nov - 2 /Dec	Tomás Olvera López	Director, Dept. of OECD, SRE
		Mónica Gabriela Friedrich López	Director, Dept. of Economic Cooperation, SRE
		María Beatriz García Fírol	Analyst, IMEXCI, SRE
		Sergio Sierra Bernal	Director, Dept. of Culture and Educational Agreement, SRE
		María Luisa Zimbrón Pardo	Sub-director, Dept. of Educational Cooperation for Latin America and the Caribbean, IMEXCI, SRE
		2001	13/Nov - 8 /Dec
		Gabriela De la Peña Romero	Deputy Director for Asia Pacific and Oceania, Dept. of Bilateral Programs for South America, Asia, etc., DGCTC, SRE
		Martha Laura Brambila Fausto	Deputy Director for Europe, Dept. of Domestic Cooperation Programs, IMEXCI, SRE
		Efraín Del Ángel Ramírez	Deputy Director for Agreements and Programs, Dept. of Domestic Cooperation Programs, IMEXCI, SRE
		Héctor Antonio Uribe Cerón	Deputy Director for Multilateral Organizations, Dept. of Multilateral Cooperation, IMEXCI, SRE
2002	14/Nov - 5 /Dec	Verónica Zamora Aguilar	Analyst, Dept. of Domestic Cooperation Programs, DGCTC, SRE
		Súnica Santiesteban Jiménez	Analyst, Dept. of Domestic Cooperation Programs, DGCTC, SRE
		Nancy De la Cruz González	Analyst, Dept. of Bilateral Programs for South America, Asia, etc., DGCTC, SRE
		Rodrigo Meléndrez Armada	Chief of Cooperation Programs for Guatemala and Honduras, Dept. of Bilateral Cooperation with Central America and the Caribbean, DGCTC, SRE
		José Alberto Herrera Morales	Chief of Cooperation Programs for AEC, CARICOM and UIO, Dept. of Bilateral Cooperation with Central America and the Caribbean, DGCTC, SRE

(2) メキシコ側の投入実績

一方、メキシコ側の投入は次のとおりである。

- ① プロジェクトのC/Pとして、職員32名（2002年12月）が配置された。
- ② プロジェクトの活動に必要な電話代、インターネットアクセス費、オフィス資材、専門家のパーキング、その他のプロジェクト関連費用が支払われた。

3-2 プロジェクトの実施プロセス

2000年6月のチーム派遣以来、外務省科学技術協力局（DGCTC）の組織強化及び南南協力強化支援に向けて、プロジェクト運営や案件管理などのJICAの組織運営、ノウハウの技術移転、職員研修、国際協力システムの構築等を実施してきた。

一方、2000年12月のフォックス政権の誕生に伴い、メキシコ国際協力庁（IMEXCI）（現在のDGCTC）の組織改編や、これまで国際協力を中心的に担ってきた関係者が交替し、南南協力を行うメキシコ側の体制に変化が生じた。さらに、先般の外務省内の機構改編により、IMEXCIは外務

省外局から外務省経済関係・国際協力次官局内の1局（DGCTC）となり、人員の削減も重なったため、従来に比べて国際協力を実施する体制が弱体化し、日本側のニーズに対してメキシコ側が十分な対応ができない状況があった。また、プロジェクト実施期間中に局長が2回交替していることもプロジェクトの活動に影響を与えた。

このような状況で、当初予定されていた活動の実施が遅れるという事態が生じたため、2001年7月に中間見直しを行い、PDMの修正を行った。以降、定期的にプロジェクト管理会議（COCO）を開催、プロジェクト運営や今後の展開に関する議論・諸問題への対応等について協議を行うようになった。

日本人専門家のC/Pへの対応については、長期・短期専門家ともにC/Pとのコミュニケーションを十分に行い、C/Pからの要望や意見にも常に速やかに対応していたことが確認された。データベースの開発を担当していた短期専門家は、派遣期間終了後もC/Pからの質問に対応していた。

C/Pの専門家への対応についてみると、必ずしも十分ではなかった。ジェネラルコーディネーターを中心として、C/Pがプロジェクトの主要な5つの活動に対して1名ずつ任命されていた。しかしながら、5名の足並みは必ずしもそろっておらず、また、ジェネラルコーディネーターの主導力がプロジェクトにおいて効果的に発揮される場面は少なかった。

COCOの開催以降、C/Pの対応に改善がみられるほか、2002年9月に設立されたPCMグループが職員全体のプロジェクトへの参画意欲を促進しており、これらが残りのプロジェクト期間において重要になってくると思われる。

3-3 プロジェクトの主な成果

(1) 国際協力案件の形成、実施、モニタリング、評価システムの確立、適用

プロジェクトを通じて、多くのDGCTC職員がPCM研修を受講し、PCM手法の計画立案を習得した。また、スペイン語によるPCMの教材も作成された。2002年9月初旬に、5名のメンバーで形成されるPCMグループが立ち上げられ、今後はPCMグループを中心として、PCMのDGCTC内外への浸透、案件形成、審査時におけるPCM手法の活用が期待できる。

(2) 国際協力の運営管理のためのデータベースの構築

データベースは日本人短期専門家により開発、供与され、また、データベースの活用に関するワークショップが4回実施された。しかしながら、その導入にあたり、供与されたデータベースに不具合が生じたため、結果的には、DGCTCが他のドナーの支援を受けて新しいデータベース（SICOI）を開発するに至った。国際協力データベース（Sistema de Cooperación Internacional：SICOI）は、現在その導入に向けて個別データの入力を行っているところであ

り、実際の活用は2003年となる見込みである。

(3) 関係職員の人材育成

本邦研修を通じてJICAの行う国際協力事業全般に対するノウハウが移転されたが、帰国後の定着率が低く、その成果がDGCTC内に十分蓄積されていない。なお、SICOIには、日本側から提案されたロジカルフレームワークを用いたプロジェクト管理の考え方が引き継がれている。

(4) メキシコ国際協力システム(Sistema Mexicana de Cooperación Internacional：SIMEXCI)の活用促進

メキシコ国際協力の実施機関を含むすべての関係機関（関係省庁、研究所等）が、SICOIにアクセスできるようになっており、既に300以上の機関が登録済みである。

(5) 第三国専門家派遣、第三国研修の効率的実施体制の確立

第三国専門家派遣、第三国研修の関係者であるDGCTC職員、メキシコ在外大使館職員、実施機関関係者等に対してPCM研修が行われた。また、第三国専門家派遣、第三国研修の実施プロセスに係る見直しについても行われた。

(6) 日本・メキシコ第三国連携によるパイロットプロジェクトの実施体制の確立

ニカラグア、エルサルバドル、コスタリカ、ホンジュラス、ペルー、ボリビア、キューバの7か国に対して案件形成調査団を派遣し、ニカラグア、エルサルバドルの案件についてはPDMが作成され、現在は実施に向けて最終調整に入ったところである。ボリビア、キューバについては、連携案件としての検討は見送られたものの、コスタリカ、ホンジュラス、ペルーについては、現在も案件形成を行っている。

3-4 残された問題点と課題

成果からも見受けられるように、本プロジェクトは、プロジェクト目標の達成に必要な基本条件がようやく整備されたところである。残された問題と課題を以下にまとめる。

- (1) PCMグループは、現在活動内容の検討を行っているところである。今後は、関係職員に対するPCM研修や重要な国際協力プロジェクトの審査、案件の評価に参加することなどが予定されている。PCMグループのメンバーは、これらグループ活動のほかに、多くの通常業務を抱えているのが現状である。グループ活動の円滑な実施のために、組織におけるグループの

位置づけが明確化されることが望まれる。

- (2) 本プロジェクトにより多くの職員がPCMの計画立案を習得しているが、モニタリング、評価に関する知識、また、これらの活用に関してはこれからである。慢性的な人手不足に悩むDGCTCが将来的に個々のプロジェクトに対してモニタリング、評価を実施できるかどうかは今のところ不明であるが、PCMの全体像を理解したうえで、PCM手法の活用に係る組織の方針を固めていくことが重要である。
- (3) SICOIが、本プロジェクトが当初予定していたとおり、プロジェクト管理、運営において関係職員により有効活用され、さらにはメキシコ国際協力の関係機関との連携が図れるか否かは、今後の課題として残っている。
- (4) 日本・メキシコ第三国連携によるパイロットプロジェクトのうち、2案件が実施に向けた準備段階に入った。このスキームは手続きが複雑であることに加え、関係者が多数に及ぶため、関係者間の十分な協議と調整が重要となる。プロジェクト終了後もこれらパイロットプロジェクトの実施が実現されるためには、現在設立されているプロジェクトの合同委員会においてDGCTCが主導力を発揮し、委員会の機能を強化していくことが望ましい。

第4章 評価結果

4-1 妥当性

プロジェクトの上位目標・プロジェクト目標は、下記のとおりメキシコの政策及び日本の援助方針と合致しており、本プロジェクトの妥当性が認められる。

(1) 外務省科学技術協力局（DGCTC）の組織能力の強化、及びメキシコの南南協力の実施能力の強化

プロジェクト実施中において、政権交代及び組織改編が生じ、当初のC/P機関であるメキシコ国際協力庁（IMEXCI）がDGCTCに改編されたが、メキシコの国際協力における技術移転の担い手としてのDGCTCの役割、及びメキシコの南南協力の実施能力強化の必要性は、DGCTCにも受け継がれた。また、ラテンアメリカ及びカリブ地域の開発を支援するために、援助の質的向上によるメキシコの南南協力の強化の重要性がますます高まっていること、特に、中南米カリブ地域において南南協力のニーズが高まっていることが確認された。案件の数では、メキシコは既に独自に約500件の南南協力を実施しており、十分な実績を有している。しかしながら、いずれも2週間以内の短期専門家派遣ベースの協力内容であるが、約50名のDGCTCの実施体制を考えると実施能力の限界と考えられる。今後は、数的な拡大よりも、質的な向上を考える時期であり、この点、合同評価会において、DGCTC局長からも、今後は日本との協力により包括的な協力を実施したい旨表明された。これは、協力の成果が限定的な単発の投入のみという従来からの協力スタイルを、日本との連携により、研修員受入れ・機材供与を含み、全体をPDMで管理するプロジェクトのレベルに高めたいという意欲・希望の現れと思われる。

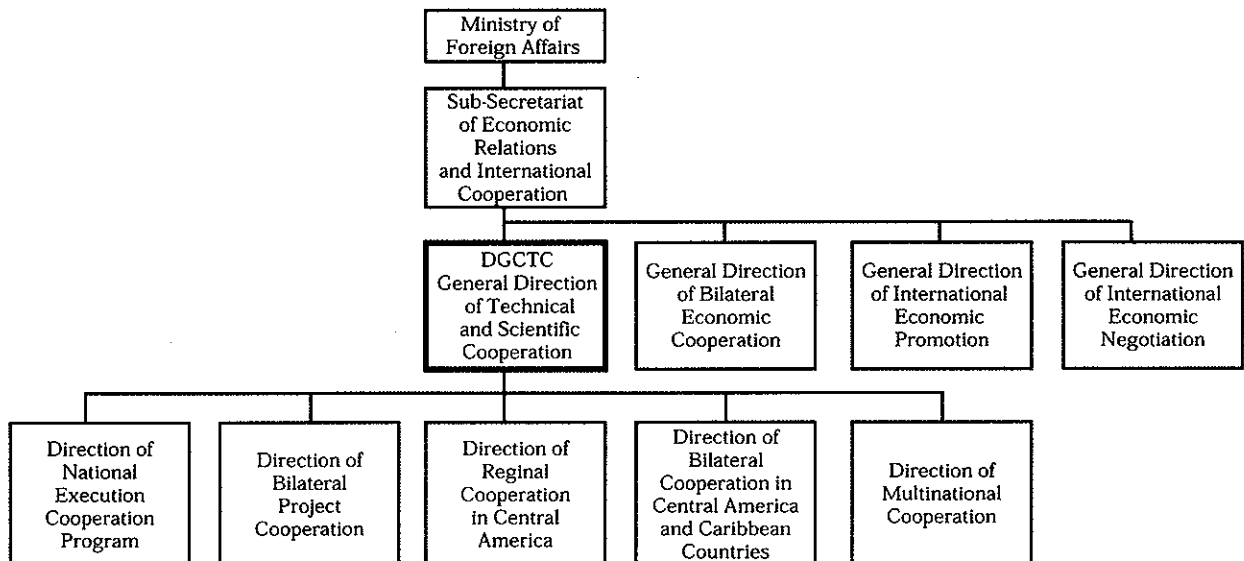


図4-1 DGCTCの組織図

表4-1 中南米のメキシコに対する援助要請件数

Country	2000		2001		2002		2003 (expected)	
	Project	Activities	Project	Activities	Project	Activities	Project	Activities
Belize	9	12	9	9	6	26	9	9
Costa Rica	55	59	55	59	55	59	50	69
El Salvador	13	22	22	37	26	44	26	44
Guatemala	37	45	64	80	64	80	40	50
Honduras	45	45	45	49	20	30	9	18
Nicaragua	41	50	45	65	45	65	18	38
Panama	39	39	39	47	31	36	31	36
Central American Region								
Caribbean (Bilateral)	24	24	11	11	18	18	25	25
Other								
Total	263	296	290	357	265	358	208	289

注：Projectとは6か月以上続く案件、Activitiesは6か月未満でプロジェクトの個別の活動を指す。

出所：DGCTC

表4-2 中南米に派遣されたメキシコ人第三国専門家数（1998～2002年度）

年	件数
1998	7
1999	19
2000	36
2001	22
2002（暫定値）	30

(2) 我が国の援助方針

南南協力支援の重要性は、1996年5月採択のDAC新開発戦略に掲げられており、我が国としては、ODA中期政策のなかで積極的に取り組むべき援助手法のひとつとされている。途上国が他の途上国に対し支援を行う南南協力支援は、被援助国にとってより適した技術移転を可能とし、また、途上国による技術協力は先進国が行うよりもコストが低いことが多いことから、開発資源の効率的な活用の点からも有効である。さらに、援助実施主体の裾野を広げる意義もあることが認識されている。これを受けて、南南協力支援は、JICAの対メキシコ国別事業実施計画において重点事項のひとつとして取り上げられている。

平成13年度政策協議においては、3つの援助重点分野（地域・貧富の格差の是正、産業開発と地域振興、及び環境対策と自然環境保全）の更に上位に、両国の経済協力における重点項目として、南南協力支援が据えられた。またメキシコ側代表からも、「（過去の日本の協力

の) 成果を基に、メキシコが第三国に対して協力することは、中南米カリブ諸国に対するメキシコ外交政策の重要な施策のひとつでもある。よって、この南南(水平)協力の推進は、日本とメキシコの二国間協力の結晶である」との発言があった。

(3) 日本の技術の優位性

本プロジェクトの活動の一環として、DGCTCにおいて新たに導入されたPCM手法は、メキシコにとって全く新しい案件管理方法であった。PCM手法の活用は、日本・メキシコ三角協力プロジェクトの実施、及びDGCTCの国際協力活動において有益であったことが本評価調査において確認された。

4-2 有効性

有効性は、プロジェクト目標及び成果の達成度を基準に評価した。

4-2-1 プロジェクト目標の達成度

本プロジェクトは、「DGCTCの組織能力強化と南南協力実施能力の強化」を目標として、3年間にわたり実施されてきたものであるが、同プロジェクトの成果の一部が達成に至らなかったことから、目標達成度は低いと評価される。しかしながら、大多数のDGCTCスタッフがPCMの初級(プロジェクト計画・立案)を修了していること、また、申請を受けた案件をPCM手法を用いて、体系的かつ客観的に審査できるようになりつつあることが、スタッフに対するアンケート調査において確認された。一方、南南協力実施能力の強化については、日本・メキシコ連携案件発掘形成活動プログラム候補案件5件のうち、評価調査時点(2002年12月)において、2件の案件形成が行われ、これらについてはPDMが作成されていた。

プロジェクト目標が達成されなかった主な原因は、プロジェクト期間中に生じた2回のメキシコ外務省改革により当初のIMEXCIがDGCTCに組織改編され、また、途中二度にわたり、組織の長が交替したなどの外部要因により、計画されていた個々の活動が遅れたことによると判断される。

したがって、本プロジェクトの有効性は総体的に低いと判断されるものの、本評価調査のPDMの作成において、計画時から空欄となっていたプロジェクト目標の指標の明確化の必要性が認識されたこと、また、今後PDMで明確化された以下の指標の達成に向かって予定された活動が実施されれば、プロジェクト目標の達成の可能性は十分あり得ると考えられる。

「DGCTCの組織強化とメキシコの南南協力メカニズムの強化」に対する指標

- 1) 中南米地域のメキシコ大使館がチェックリストを用いて、メキシコ政府に対して提出された援助案件の申請書の審査を行う。
- 2) DCBCACは、率先的に、2003年6月までに少なくとも2件の三角協力案件をJICAに対して要請する。
- 3) DCBCACは、2つの合同委員会により提出されるプロポーザルについて、PCM手法を用いて案件審査を行う。
- 4) DGCTCは、中南米カリブ地域のメキシコ大使館から提出された案件の選定過程において、PCM手法を適用する。
- 5) (DGCTC) 国内事業部 (DPEN) は、新規第三国研修の選定においてチェックリストと活用する。
- 6) DPENは、新規第三国研修のデザインを行う際にPCM手法を適用する。

4-2-2 個々の成果の達成度合い

(1) 成果1

「国際協力案件の形成・実施・モニタリング・評価システムが確立され、それが適用される」

- ① プロジェクト申請書の様式に関する見直しが行われ、中米カリブ二国間協力部 (Dirección de Cooperación Bilateral con Centro América y el Caribe : DCBACAC) では、実際に本プロジェクトで改訂された申請書を活用している。一方、DGCTCにおいて共通様式を確立し、それを使用するという当初の計画については、ステアリング・コミッティーにおいて、部署によりその実行可能性が低いことが確認されたため、作業は中断となった。
- ② 2002年9月初旬に5名のメンバーで形成されるPCMグループが設立され、うち1名がジェネラルコーディネーターとして任命された。PCMグループは現在グループの活動内容 (T/R) を検討している段階である。
- ③ DGCTCには、PCMグループのメンバーのうち、PCMワークショップのモデレーターを務める能力があるスタッフが2名、副モデレーターを務める能力があるスタッフが2名、また、これまでに11名が日本においてPCMの特別研修を受講している。
- ④ 過去に行われた我が国の対メキシコ二国間援助の分析を行った。今後は現在プロジェクト形成段階にある日本・メキシコ連携パイロットプロジェクトの評価が行われる見込みである。

(2) 成果2

「国際協力の運営管理のためのデータベースが構築される」

データベースは日本人短期専門家により開発、供与され、また、データベースの活用に関するワークショップが4回実施された。しかしながら、データベースの設計時にデータベースの最大のユーザーである中米カリブ地域部の協力が得られず、完成したデータベースは一部の部局のみでしか導入されないなど不具合が生じたため、結果的には、DGCTCが他のドナーの支援を受けて新しいデータベース（SICOI）を開発するに至った。

(3) 成果3

「上記2点につき、関係職員が有効に活用して職務を遂行できるようになる」

SICOIには、当初提案されたロジカルフレームワークを用いたプロジェクト管理の考え方が引き継がれている。現在、個別データの入力作業を行っているところであるため、それが関係職員職務に有効的に活用されるか否かは、今後の課題として残っている。

(4) 成果4

「メキシコ国際協力システム（SIMEXCI）の確立に寄与する」

メキシコ国際協力の実施機関を含むすべての関係機関がSICOIにアクセスできるようになっており、既に300以上の機関が登録済みである。

(5) 成果5

「第三国専門家派遣、第三国研修の効率的実施体制が確立される」

第三国専門家派遣、第三国研修の関係者であるDGCTC職員、メキシコ在外大使館職員、実施機関関係者等に対してPCM研修が行われた。また、第三国専門家派遣、第三国研修の実施プロセスに係る見直しについても行われた。

(6) 成果6

「日本・メキシコ第三国連携によるパイロットプロジェクトの実施体制が確立される」

ニカラグア、エルサルバドル、コスタリカ、ホンジュラス、ペルー、ボリビア、キューバの7か国に対して案件形成調査団を派遣し、ニカラグア、エルサルバドルの案件についてはPDMが作成され、現在は実施に向けて最終調整に入ったところである。ボリビア、キューバについては、連携案件としての検討は見送られたものの、コスタリカ、ホンジュラス、ペルーについては、現在も案件形成を行っている。

既に三角協力協力の経験を有する、アルゼンチン、チリの関係機関との意見交換がわれ、2003年2月には、メキシコ国において日本・メキシコ連携パイロットプロジェクトの実施促進に係るセミナーも予定されている。

表4-3 日本・メキシコ連携パイロット案件状況一覧

国名	概要
エルサルバドル	<p>“Materiales y Método para Procesos de Autoconstrucción de Vivienda Segura” 中米大学(Universidad de Centro América : UCA)</p> <p>2001年3月にエルサルバドルにIMEXCI職員及びメキシコ人専門家〔国立防災センター(CENAPRED)〕を含む調査団を派遣した。地震防災分野セミナーとPCMワークショップを開催し、その結果を踏まえて、メキシコ人専門家がプロジェクトデザインや機材選定作業を行った。2002年12月には日本人個別専門家が派遣され、メキシコ人専門家によるプロポーザルの内容について確認調整作業が行われる計画である。なお、日本人専門家は、復路メキシコに立ち寄り、同メキシコ人専門家と最終調整を図る予定である。</p>
ニカラグア	<p>“El Manejo Integrado de Plagas en la Región Noroccidental de Nicaragua” ニカラグア国立自治大学(Universidad Nacional Autónoma de Nicaragua - León : UNAN)</p> <p>2001年6月にニカラグアへのプロジェクト形成調査団を派遣し、「農業害虫総合防除計画」の案件形成作業を行った。2002年7月にはメキシコ人専門家2名〔国立農牧林研究所(INIFAP)とアントニオ・ナロ農業自治大学(UAAAN)〕を含む調査団を派遣し、PDM確定作業や暫定的プロジェクト計画の策定、インフラや機材の確認作業を行った。また、同年8月には2名のメキシコ人専門家を派遣(第三国専門家派遣制度を利用)し、日本側の供与機材について最終的な詰めが行われている。</p>
コスタリカ	<p>“Generación Eléctrica y Protección del Medio Ambiente” 電力公社(Compañía Nacional de Fuerza y Luz : CNFL)</p> <p>2002年度案件として承認されている第三国専門家派遣案件3件(メキシコ、チリ、アルゼンチン)を組み合わせることによって、協力の付加価値を高めることを狙った連携協力である。本年8月中旬には、メキシコで事前調整会議を開催し、関係者の間で協力の方向性や、10月後半から11月初旬の間に行われる第三国専門家の複合派遣に向けた調整作業を行っている。水力発電開発に対する環境保護・保全対策にクリーンエネルギー開発(風力)を組み合わせた協力のシナリオを描き、また、将来的には資金協力等の投入を狙ったものである。</p>
ホンジュラス	<p>“Manejo de Agua y Riego” & “Procesamiento de Productos Pesqueros” 農牧省(Secretaría de Agricultura y Ganadería)</p> <p>メキシコによる対ホンジュラス協力案件に、我が国の協力を絡める、という新興国のイニシアティブによる協力に対する支援プログラムとなる公算が強い。ホンジュラス政府が8月末に提出した日本側の協力に対する要望調査の結果を基に、連携協力の方向性や今後の作業内容を定めることを目的とした調査団を、2002年10月末頃から1週間派遣し、また、2003年1月にはPDM策定のための調査団を派遣する予定である。</p>
ペルー	<p>“Manejo y Protección de Cuenca” 資源庁(Instituto de Recursos Naturales : INRENA)</p> <p>2002年5月後半、南米地域日本・メキシコ連携案件発掘調査団(IMEXCI職員を含むメキシコ人専門家3名)を派遣した。来年度分案件として、小規模河川流域保護・保全分野でのメキシコ人専門家派遣〔水工学研究所(IMTA)〕が検討されている。</p>

4-3 効率性

(1) 投入のタイミング

日本側の専門家及び機材投入は、当初計画のとおり行われた。一方、DGCTC側の投入である人材及び付加価値税（VAT）の支払い等が、前述した外部要因の影響でプロジェクト実施過程において一部十分に行われなかった。この点に関し、本合同評価時に日本側は、DGCTC側の予算投入が十分ではなかったのではないかと問題提起したが、DGCTCは認めず、概して予算措置は適切であったと主張した。

PCMグループの設立の遅延がプロジェクト活動全体、特にDGCTCの組織能力強化に関連する活動の遅延につながった。2001年7月のPDM見直しが行われ、ステアリング・コミッティーが設立されたことにより、プロジェクトの効率性が高まりつつある。

(2) 投入と成果の関係

日本側が供与した機材のうち、データベースシステムに関しては技術的あるいは構造的不一致により、導入に際して不具合が生じた。プロジェクト管理の必要性に應えるため、DGCTCは新しいデータベースシステムの開発を日本側に提案した。日本側は、DGCTCより提案された拡張システムが、日本側とDGCTCが交わしたミニッツにおける当初計画の範囲を超えていたこと、また、プロジェクト実施期間中に提案されたシステムの効率的活用は困難であると判断したため、新しいデータベースシステムの開発を断念した。その後、DGCTCは、当初JICAにより提案されたPCMに基づくプロジェクト管理手法の考え方を受け継いだ新しいデータベースシステム（SICOI）を開発している。

合同評価において、データベースの不具合の原因やDGCTC側の対応について様々な議論がなされた。特に、データベースの不具合・不一致が、structural構造的であるか、technological技術的なものであるかについては、日本・メキシコ双方で意見が食い違い、最終的に署名されたミニッツにおいては両者併記となった。しかしながら、新たに構築されたSICOIが効果的に活用されることが、本件プロジェクト成果の達成には必要不可欠であることを、両者が確認したことは極めて有意義であったと考える。

4-4 インパクト

当初計画されていた活動の一部が実施に至っておらず、プロジェクト目標の達成に至っていないことから、当初予定されたインパクトを計ることは時期尚早と判断される。

当初予定されていなかったインパクトとして、PCM研修の受講について、州政府から要望があがってきており、既にいくつかの州でPCMグループがこれに対応した。州レベルでのPCM研修に対する関心は、今後とも高まっていくとみられる。

4-5 自立発展性

これまでに本邦研修に参加した職員20名のうち、9名がDGCTCを離れているという現状と、今後も起こり得る人事異動への、組織としての対応が明らかでなかったことなどを総合的に勘案し、当初の評価結果では自立発展性は低いと判断した。しかしながら、第2回合同評価において、DGCTC側より、「職員の離職はあくまでも個人の自由意思によるもので、組織としてはいかんともしがたい。ただし、予期しない人事異動への対応策として、国際協力に関する恒常的な研修を実施する」旨の表明がなされたため、最終的には自立発展性はあるという判断に至った。恒常的な研修の具体的な内容や、DGCTCの予算情報が内部規約により評価調査団に提供されないため、財政面における自立発展性という観点でも不明な点が多い。しかしながら、DGCTC職員がプロジェクト活動の参加に積極的な姿勢を見せていること、また、日本・メキシコ連携包括パイロットプロジェクトにおける協調融資へのコミットメントを維持することも表明されていることから、自立発展性はあると結論づけられる。

4-6 結 論

3年間にわたり実施されてきたプロジェクトの目標は、当初計画されていた多くの活動の実施が遅延したことから、いまだ達成に至っていない。しかしながら、DGCTCの組織強化の観点からは、プロジェクトにより技術移転されたPCM手法が、DGCTC職員の国際協力案件管理能力の向上に生かされ、ひいては組織能力の強化に貢献していることが確認された。今後は、PCMグループの活動が活性化することで、組織強化が更に進むことが期待される。また、南南協力の実施強化の観点からも、実際に2件の日本・メキシコ連携包括プロジェクトが準備段階に入っており、着実に目標が達成されつつある。将来的なプロジェクト目標の達成の見込みは、DGCTCの本件プロジェクトに対する組織的取り組みの度合いに大きく委ねられていると判断される。

第5章 教訓と提言

5-1 提言

評価結果を踏まえて、以下を提言する。

(1) PCMグループの活用の向上

外務省科学技術協力局（DGCTC）の組織能力の強化を図るにあたり、PCMグループが重要な役割を果たすこととなるため、今後はPCMグループの組織としての位置づけをより明確にするとともに、PCMグループの活動を促進する必要がある。また、PCMグループメンバーの、日常業務とPCMグループの活動業務との調整が不可欠である。

(2) ノウハウの蓄積と活用

本プロジェクトを通じて日本人専門家より、移転されたノウハウ及び実務経験は、プロジェクト目標を達成するために必要不可欠なものである。将来の予期せぬ人事異動に備え、これらのノウハウを体系的に蓄積していくことをこれまで以上に心掛ける必要がある。

(3) データベースシステムと案件管理の連携

案件管理において、データベースシステムの活用は極めて重要である。したがって、新しく開発されたSICOIの効果的な活用について、定期的に確認することが重要である。

5-2 教訓

(1) 本プロジェクトのような組織強化が目的のプロジェクトにおいては、人事の安定、ノウハウ及び経験の蓄積、政策の一貫性が、特に重要な要因となる。しかしながら、本プロジェクトでは、これらの要因をプロジェクトの形成段階において、外部要因として取り扱うこととし、プロジェクト活動の範囲から外してしまった。そして結果的には、これらの外部要因が本プロジェクトの目標達成を大きく妨げる要因となった。

将来的に、組織強化を目的としたプロジェクトを実施する際には、プロジェクトの計画段階において、これらの外部要因が生じる可能性を事前にある程度想定し、それを活動計画に反映する必要があると考える。

(2) 本プロジェクトでは、データベースシステムの開発に短期専門家を派遣した。システムのデザイン段階において、C/Pのニーズを詳細に把握すべく、より長い時間をかけて検討できていれば、今回のような構造的な不一致を回避できていたかもしれない。システム開発の

協力にあたっては、日本側投入の派遣専門家（システムエンジニア）が、単なるシステム開発の役務提供で終わることのないように、先方実施機関側にシステムエンジニアが配置されることを前提として、システム設計（ニーズの把握、ユーザーの立場に立った設計）、システム開発（実施機関で運用管理可能な技術レベル）、システム導入のための研修実施にいたるまで、十分な協力期間を確保することが重要である。

- (3) 本プロジェクトの目標は、「DGCTCの組織能力を強化し、南南協力実施能力の強化を図る」ことであった。DGCTCの組織能力の強化には、組織としてのコンセンサスが不可欠となる。しかし、プロジェクト実施過程においてコンセンサスが得られたのは、DGCTCに属する5部のうち、南南協力支援に直接関係する「中米カリブ二国間協力部（DCBCAC）」、及び我が国からの二国間協力の窓口機関である「国内事業部（Dirección de Programas de Cooperación de Ejecución Nacional：DPEN）」だけであった。この背景には、DGCTCという組織が個別の事業部のみで構成されていることにある。これを補うべく、局長の下にジェネラルコーディネーターが配置されたが、各事業部の取りまとめ役を担うほど機能していない。

このような状況を総合的に判断すると、本プロジェクトの目標のスコープそのものが大きすぎたとも考えられる。むしろ、メキシコの「南南協力支援の強化」が、本プロジェクトの目標であったならば、その達成は十分に可能であったと思われる。

今後、南南協力強化支援を目的とするプロジェクトを実施する際には、対象となるC/P機関の組織構造、能力を十分に勘案しつつ、適正なプロジェクトスコープについて十分に検討する必要がある。

- (4) DGCTCの職員の多くが契約社員であるという現状を考えると、プロジェクトの活動の中心をDGCTCにのみ置いたことは適当であったのかという疑問が残る。プロジェクト運営・管理方法の技術移転は、専門家の派遣機関や研修実施機関に対しても行っていたほうが、移転された技術が、有効かつ効率的に活用された可能性が高かったのではないかと考えられる。C/P機関の体制、当該国での役割、周辺関係機関との関連性などを総合的に調査・分析したうえで、プロジェクトの実施体制を検討することが重要である。

- (5) 組織強化のプロジェクトであったが、JICA組織と類似する組織機能の一面のみに注目してプロジェクトを実施することは危険であったと考える。単純にメキシコ版JICAをつくる、JICAコピー版をつくるというのではなく、互いの組織の背景・文化というものの違いを協力者・受け手側の両者がよく理解したうえで、協力の範囲を慎重に設定し、受け手側の体制内でコンセンサスを醸成することが必要である。JICAの行う国際協力事業も、日本のODAの歴

史という特殊な環境のなかで形成されてきたものであり、現在の国別アプローチやPCM手法の導入についても、依然として試行錯誤の段階ともいえる。したがって、受け手側のより能動的な協力範囲の取捨選択が必要になるが、体制が脆弱な組織の場合、このような能動的な体制方針の決定ができないというジレンマが生じるであろう。

- (6) プロジェクト開始当初、個別専門家チーム派遣（旧ミニプロジェクト）という形で、通常のプロジェクトよりも協力期間・投入量が限られた協力スキームであった。このような限定的な協力規模である場合、これに応じたプロジェクト目標、協力範囲を見極めることが重要である。

付 属 資 料

1. 調査日程
2. 主要面談者
3. ミニッツ
4. 修正後PDM（和文）
5. スタッフアンケート調査結果
6. その他参考となるデータ
7. 協議議事録

1. 調査日程

月日	曜日	日 程
12月5日	木	第1回日本・メキシコ合同評価会議
6日	金	日本人専門家及び外務省科学技術協力局(DGCTC)職員へのインタビュー調査
7日	土	評価結果の取りまとめ
8日	日	評価結果の取りまとめ
9日	月	JICAメキシコ事務所打合せ、在メキシコ日本大使館表敬 DGCTCロサノ局長との打合せ、DGCTC職員へのインタビュー調査
10日	火	国立防災センター(CENAPRED)、環境研究研修センター(CENICA)訪問 評価結果の取りまとめ
11日	水	外務省ハキム次官表敬 ミニッツ(案)作成
12日	木	第2回日本・メキシコ合同評価会議
13日	金	ミニッツ署名・交換

2. 主要面談者

〈メキシコ側関係者〉

(1) メキシコ外務省 (Secretaría de Relaciones Exteriores : SRE)

Mr. Miguel Hakím Simón Subsecretario de Relaciones Económicas y Cooperación
Internacional

(2) 外務省科学技術協力局 (Dirección General de Cooperación Técnica y Científica : DGCTC)

Mr. Gerardo Lozano Arredondo Director General

Mr. Enrique Bacmeister Gudiño Asesor

Mr. Juan Muíño Kielman Director de Cooperación y Proyectos Bilaterales

Ms. Sonia González Aguirre Directora de Cooperación Bilateral con Centro América y
el Caribe

Ms. Cristina Ruiz Ruiz Directora de Programas de Cooperación de Ejecución
Nacional

Mr. Jesús Velázquez Castillo Director de Cooperación Multilateral

Mr. Héctor Uribe Cerón Subdirector de Cooperación Multilateral

Mr. Gabriel Sirnes Mancera Subdirector de Cooperación Regional de Centro América

Mr. David Regalado Jiménez Subdirector de Cooperación Bilateral con Centro América

Mr. Efraín del Angel Ramírez Subdirector de Convenios y Programas de Cooperación de
Ejecución Nacional

Mr. Alberto Herrera Morales Jefe de Cooperación Bilateral con el Caribe

Mr. Rodrigo Melendez Armada Jefe de Cooperación Bilateral con Centro América

Ms. Verónica Zamora Aguilar Coordinadora de Programas de Cooperación de Ejecución
Nacional

Ms. Súnica Santiesteban Jiménez Coordinadora de Programas de Cooperación de Ejecución
Nacional

(3) 国立防災センター (Centro Nacional de Prevención de Desastres : CENAPRED)

Ms. Carmen Pimentel Secretaria Técnica

Mr. Carlos Reyes Salinas Jefe del Area de Ingeniería Estructural y Geotécnia

Mr. Oscar Lopez Batiz Investigador del Area de Ingeniería Estructural y
Geotécnia

(4) 環境研究研修センター (Centro Nacional de Investigación y Capacitación Ambiental : CENICA)

Mr. Víctor Javier Gutiérrez Avedoy Director General
Ms. Aloma Delia Nava Secretaria Particular

〈日本側関係者〉

(1) 在メキシコ日本大使館

堀村 隆彦 大 使
藤村 和広 公 使
大森 摂生 参事官

(2) JICAメキシコ事務所

河合 恒二 所 長
安藤 孝之 次 長
大和田 由起子 所 員

(3) プロジェクト専門家

榎下 信徹 国際協力政策
長町 昭 国際協力案件管理
菊池 和則 国際協力システム

**MINUTES OF THE MEETING
BETWEEN
THE JAPANESE EVALUATION TEAM
AND
GENERAL DIRECTION OF TECHNICAL AND SCIENTIFIC COOPERATION,
MEXICAN MINISTRY OF FOREIGN AFFAIRS
ON
THE TECHNICAL COOPERATION PROJECT FOR
THE REINFORCEMENT OF DGCTC
AND
THE DEVELOPMENT OF SOUTH-SOUTH COOPERATION
IN
THE UNITED MEXICAN STATES**

Japan International Cooperation Agency

Mexico, D.F., December 13, 2002

MINUTES OF THE MEETING
BETWEEN
THE JAPANESE EVALUATION TEAM
AND
GENERAL DIRECTION OF TECHNICAL AND SCIENTIFIC COOPERATION,
MEXICAN MINISTRY OF FOREIGN AFFAIRS
ON
THE TECHNICAL COOPERATION PROJECT FOR
THE REINFORCEMENT OF DGCTC
AND
THE DEVELOPMENT OF SOUTH-SOUTH COOPERATION
IN
THE UNITED MEXICAN STATES

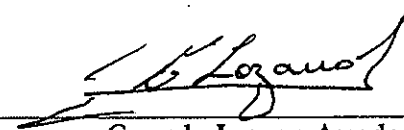
The Japanese Evaluation Team (hereinafter referred to as "the Team"), organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Mr. Kenichiro Kawaji, visited the United Mexican States from December 5 to 13, 2002 for the purpose of evaluating jointly with General Direction of Technical and Scientific Cooperation of Mexican Ministry of Foreign Affairs (hereinafter referred to as "DGCTC"), concerning the achievement of the Japanese Technical Cooperation Project for the Reinforcement of DGCTC and the Development of South-South Cooperation (hereinafter referred to as "the Project").

During its stay in the United Mexican States, the Team exchanged points of view and had a series of discussions about the evaluation of the Project with the Mexican authorities concerned. As a result of the discussions, both sides mutually agreed upon the matters referred to in the document attached hereto.

Mexico, D.F., December 13, 2002



Kenichiro Kawaji
Team Leader
Japanese Evaluation Team,
Japan International Cooperation Agency
Japan



Gerardo Lozano Arredondo
Director General
General Direction of Technical and Scientific Cooperation,
Ministry of Foreign Affairs
The United Mexican States

ATTACHED DOCUMENT

JOINT EVALUATION REPORT
ON
THE TECHNICAL COOPERATION PROJECT
FOR
THE REINFORCEMENT OF DGCTC
AND
THE DEVELOPMENT OF SOUTH-SOUTH COOPERATION
IN
THE UNITED MEXICAN STATES

December 13, 2002



TABLE OF CONTENTS

1. INTRODUCTION 1
1-1. Purpose of Evaluation 1
1-2. Schedule of the Team 1
1-3. List of Personnel Visited by the Team 1
1-4. Evaluators 3
1-4-1. Japanese Side 3
1-4-2. Mexican Side 3
1-5. Methodology of Evaluation 4
2. BACKGROUND AND SUMMARY OF THE PROJECT 5
2-1. Background 5
2-2. Summary of the Project 5
3. ACHIEVEMENT OF THE PROJECT 6
3-1. Achievements of Input 6
3-2. Achievements of Activities 6
3-3. Achievements of Project Output 6
4. EVALUATION RESULTS 7
4-1. Relevance 7
4-2. Effectiveness 7
4-3. Efficiency 7
4-4. Impact 8
4-5. Sustainability 8
5. CONCLUSION 9
6. RECOMMENDATION 9

- LIST OF ANNEX -

Annex I:	PDMe
Annex II:	ACHIEVEMENTS OF INPUT
II-1.	List of Japanese Experts
II-2.	List of Counterparts
II-3.	Training of Counterparts in Japan
II-4.	List of Equipment
II-5.	Budgetary Input of the Project by DGCTC
Annex III:	ACHIEVEMENTS OF ACTIVITIES
Annex IV:	ACHIEVEMENTS OF PROJECT OUTPUT
Annex V:	DGCTC's ORGANIZATIONAL CHART
Annex VI:	LIST OF PCM WORKSHOPS AT DGCTC
Annex VII:	LIST OF JAPAN – MEXICO JOINT MISSIONS



1. INTRODUCTION

1-1. Purpose of Evaluation

The objectives of this evaluation study are:

- (1) To examine, with the Project Design Matrix (PDM), the actual performance of the "Technical Cooperation Project for the Reinforcement of DGCTC and the Development of South-South Cooperation in the United Mexican States" (hereinafter called as the "Project"),
- (2) To study the extent to which the expected outputs or project purpose in this Project have been achieved, or are expected to be achieved,
- (3) To discuss measures after the completion of this Project and report or propose the discussion results to the Governments of Mexico and Japan,
- (4) To draw some instructions or suggestions that could be applied to similar projects to efficiently implement them in the future.

1-2. Schedule of the Team

Date			Schedule
Dec.	5	Thu	Japan- Mexico Joint Evaluation Meeting I
	6	Fri	Interview with Japanese experts and their counterparts
	7	Sat	Review research results
	8	Sun	Review research results
	9	Mon	Meeting with DGCTC Director General and some other staff
	10	Tues	Interview with DGCTC staff
	11	Wed	Interview with DGCTC staff
	12	Thu	Japan- Mexico Joint Evaluation Meeting II
	13	Fri	Signing of the Minutes

1-3. List of Personnel Visited by the Team

Japanese Embassy in Mexico

H.E. Ambassador	Takahiko Horimura
Mr. Kazuhiro Fujimura	Minister
Mr. Setsuo Omori	Counselor

JICA Mexico Office

Mr. Koji Kawai	General Director
Mr. Takayuki Ando	Director
Ms. Yukiko Owada	

Japanese Experts

Mr. Nobutetsu Enoshita
Mr. Akira Nagamachi
Mr. Kazunori Kikuchi

Ministry of Foreign Affairs (MEXICO)

Mr. Miguel Hakim Simón

Subsecretario de Relaciones Económicas y Cooperación Internacional

General Direction of Technical and Scientific Cooperation

Mr. Gerardo Lozano Arredondo

Director General

Mr. Enrique Bacmeister Gudiño

Asesor

Mr. Juan Muiño Kielman

Director de Cooperación y Proyectos Bilaterales

Ms. Sonia González Aguirre

Directora de Cooperación Bilateral con Centro América y el Caribe

Ms. Cristina Ruiz Ruiz

Directora de Programas de Cooperación de Ejecución Nacional

Mr. Jesús Velázquez Castillo

Director de Cooperación Multilateral

Mr. Héctor Uribe Cerón

Subdirector de Cooperación Multilateral

Mr. Gabriel Sirnes Mancera

Subdirector de Cooperación Regional de Centro América

Mr. David Regalado Jiménez

Subdirector de Cooperación Bilateral con Centro América

Mr. Efraín del Angel Ramírez

Subdirector de Convenios y Programas de Cooperación de Ejecución Nacional

Mr. Alberto Herrera Morales

Jefe de Cooperación Bilateral con el Caribe

Mr. Rodrigo Melendez Armada

Jefe de Cooperación Bilateral con Centro América

Ms. Verónica Zamora Aguilar

Coordinadora de Programas de Cooperación de Ejecución Nacional

Ms. Súnica Santiesteban Jiménez

Coordinadora de Programas de Cooperación de Ejecución Nacional

CENAPRED

Ms. Carmen Pimentel

Secretaria Técnica

Mr. Carlos Reyes Salinas

Jefe del Area de Ingeniería Estructural y Geotécnia

Mr. Oscar Lopez Batiz

Investigador del Area de Ingeniería Estructural y Geotécnia

CENICA

Mr. Víctor Javier Gutiérrez Avedoy

Director General

Ms. Aloma Delia Nava

Secretaria Particular

1-4. Evaluators

1-4-1. Japanese Side

(1) Kenichiro Kawaji Team Leader	General Director, Regional Department III JICA
(2) Tatsuhiro Mitamura Evaluation Planning	Staff, Central America and the Caribbean Division Regional Department III JICA
(3) Mimi Sheikh Evaluation Analysis	Consultant, International Development Center of Japan

1-4-2. Mexican Side

(1) Gerardo Lozano Arredondo	Director General DGCTC
(2) Enrique Bacmeister Gudiño	Asesor DGCTC
(3) Sonia Gonzalez Aguirre	Directora Cooperación Bilateral con Centro América y el Caribe DGCTC
(4) Cristina Ruiz Ruiz	Directora Programas de Cooperación de Ejecución Nacional DGCTC
(5) Jesús Velázquez Castillo	Director Cooperación Multilateral DGCTC
(6) Gabriel Sirnes Mancera	Subdirector Cooperación Regional de Centro América DGCTC
(7) David Regalado Jiménez	Subdirector Cooperación Bilateral con Centro América DGCTC
(8) Efraín del Angel Ramírez	Subdirector Convenios y Programas de Cooperación de Ejecución Nacional DGCTC
(9) Héctor Uribe Cerón	Subdirector Cooperación Multilateral DGCTC

1-5. Methodology of Evaluation

The evaluation was jointly carried out by the Japanese and Mexican sides in terms of the achievement of the Project as well as five evaluation criteria, which are (i) Relevance, (ii) Effectiveness, (iii) Efficiency, (iv) Impact, and (v) Sustainability. The following references were used in order to evaluate the Project:

- (1) The Minutes signed on June 22, 2000,
- (2) The Minutes signed on July 11, 2001, and other documents prepared in the course of the implementation of the Project
- (3) The questionnaire applied to the Japanese experts and the Mexican counterparts
- (4) The interview to the Japanese experts and the Mexican counterparts
- (5) The Project Design Matrix for this evaluation (PDMe) (**Annex I**)
- (6) The Minutes of Steering Committee (CoCo)



2. BACKGROUND AND SUMMARY OF THE PROJECT

2-1. Background

In the 1990s, horizontal (South-South) cooperation was promoted actively among Latin American and Caribbean countries due to their similarities in cultures, histories, and languages. Mexican government has launched into such cooperation since 1987 and has implemented about 500 cases each year so far.

JICA dispatched a Project Formulation Advisor to Mexican Ministry of Foreign Affairs from February 1997 to May 1998 in order to analyze its procedures for horizontal cooperation and to search for a possibility of collaboration between both countries in this field.

In March 1998, a Basic Study Team of JICA discussed a plan of Mexican South-South Technical Cooperation Center with newly established Mexican Institute of International Cooperation (hereinafter referred to as IMEXCI). The conclusion of the discussions, however, was to further prepare for such an integral plan step by step. Thus, since July 1998, a Japanese expert for "Support to Cooperation South-South" worked within IMEXCI.

The establishment of IMEXCI and its steadily increasing budget showed Mexican government's commitment to its role as a cooperating developing country in horizontal cooperation. In 1999, IMEXCI requested JICA to expand the collaboration into the mini-project-type technical cooperation in pursuit of institutional capacity building.

The Project started with the signing of the Minutes in June 2000. The term of cooperation is until June 2003. In response to the IMEXCI's restructuring in the early 2001 and other important changes concerning the project's implementation, both parties of JICA and IMEXCI reviewed the Project Design Matrix (PDM) and agreed to amend the PDM by signing the Minutes on July 11, 2001. Since the restructuring of Mexican Ministry of Foreign Affairs in August 2002, IMEXCI has been transformed to General Direction of Technical and Scientific Cooperation (DGCTC) after experiencing political change in the government of Mexico. Nevertheless, DGCTC has preserved the former IMEXCI's function as the executor of technical cooperation for Mexico's international cooperation.

2-2. Summary of the Project

Based upon the master plan prepared in the Minutes signed on June 22, 2000, the following major actions have been implemented to achieve the purpose.

- Systematic project planning, implementation, monitoring and evaluation mechanism is established.
- A database system for the SIMEXCI (Mexican International Cooperation System) is developed.
- DGCTC officials become capable of using the database system for better project administration.
- This project contributes to the establishment of the SIMEXCI.
- More efficient South-South Cooperation mechanism is established.
- An efficient and effective JP-MEX trilateral cooperation mechanism is established.



3. ACHIEVEMENT OF THE PROJECT

3-1. Achievements of Input

Inputs from the Japanese side were: (details are shown in Annex II)

(i) Long-term experts:

4 experts were dispatched.

- International Cooperation System (2)
- International Cooperation Policy and Trilateral Cooperation (1)
- International Cooperation Project Management (1)

(ii) Short-term experts.

4 experts were already dispatched and two more experts are planned to be dispatched in 2003.

(iii) Counterpart training in Japan

20 counterparts were accepted for training in Japan and one more counterpart is planned to be accepted in 2003.

(iv) Equipment donation

Database System, etc.

Inputs from the Mexican side were: (details are shown in Annex II)

(i) Counterpart personnel necessary for the Project

32 personnel as of December 2002

(ii) Necessary budget for the operation of DGCTC.

Expenses on telephone, internet access, office supplies, access to water and electricity, garage space, and others.

3-2. Achievements of Activities

Refer to Annex III.

3-3. Achievements of Project Output_

Refer to Annex IV

4. EVALUATION RESULTS

4-1. Relevance

The results confirm the high relevance in the Project. The Project purpose satisfies both the needs of IMEXCI and the aid policy of the Government of Japan. During the execution of the Project, IMEXCI has reorganized as "Dirección General de Cooperación Técnica y Científica (DGCTC)", after experiencing institutional restructuring and political change in the government of Mexico. DGCTC has preserved the former IMEXCI's function as the executor of technical cooperation for Mexico's international cooperation, as well as inheriting its challenges to strengthen institutional capacity and to reinforce horizontal cooperation mechanism. As for Japan, assisting the South-South cooperation is one of the components of the Medium-Term Policy on Official Development Assistance (ODA). The purpose is also one of the important policies stated in JICA's Country Assistance Plan to Mexico.

Furthermore, the results of the evaluation indicate that the Project Cycle Management (PCM) method, which was newly introduced to DGCTC by the Project, is useful in the implementation of the Japan-Mexico trilateral projects and international cooperation activities of DGCTC.

4-2. Effectiveness

Effectiveness is low. The result is mainly due to the incompleteness of some of the planned activities (see Annex III: Achievements of Activities and Annex IV: Achievements of Project Output). The external factors such as the institutional reforms, the government changes, and reduction in DGCTC personnel during the Project term have led to delay the accomplishment of some of the Project activities.

Due to different points of view between JICA and DGCTC, some of the planned activities were eliminated.

Nevertheless, the Study concludes that the institutional capacity of DGCTC had been strengthened through the learning of PCM method. Most DGCTC staff has learned the PCM method and positive changes can be observed after the introduction of PCM by the Project. Furthermore, DGCTC is applying PCM method in its works in order to systematically and objectively analyze project proposals in their appraisal processes.

4-3. Efficiency

In the aspect of input, activities of the Japanese experts and the donations of equipments were adequately conducted as initially planned. On the other hand, the staff and necessary input such as the payment of VAT planned by DGCTC for the Project remained insufficient to some extent, due to the previously mentioned external factors. The delay in the establishment of PCM group has affected the Project activities; however, the efficiency of the Project has improved with the establishment of the Steering Committee after the revision of PDM in July 2001.

The input-output correlations remain to be evaluated later in the future. The database system, equipment donated by Japan, did not function as expected, due to technological/structural inconsistency. In order to satisfy the needs of project administration, DGCTC proposed a new database system development because of the structural inconsistency of the donated database. In consequence, DGCTC developed its new data system (SICOI), with the original concept of project management methodology under PCM.

However, Japan side resolved to discontinue the development of the system due to the following reasons: (1) upsizing the system requested by DGCTC was beyond the original plan stated in the minutes signed between Japan side and DGCTC, and (2) the efficient utilization of the proposed system within the Project period was considered to be difficult.

4-4. Impact

The impact has not been reached due to the fact that the overall goal has not been attained, as some of the activities of the Project are still under execution.

4-5. Sustainability

The sustainability of the Project is viable. DGCTC staff are highly motivated to participate in the Project activities, however the Project experienced for example, high turn over of personnel, - 9 out of the 20 staff trained in Japan have moved from DGCTC.

During the Study, it is observed that DGCTC will try to mitigate unexpected changes in the personnel rotation by conducting permanent trainings related with international cooperation. DGCTC will also try to maintain its commitment to participate in the co-financing of the South-South pilot project scheme.



5. CONCLUSION

The objectives of the three-year Project are not accomplished, since the majority of activities were delayed by the above-mentioned reasons. However, the Project demonstrates a certain progress. For the expected achievement of "Strengthening DGCTC's Institutional Capacity for Mexico's International Cooperation", the PCM group has been very active since its foundation. The group is now in the stage of further maturity. For the expected achievement of "Reinforcing Mexico's South-South Cooperation Activities", two Japan-Mexico trilateral pilot projects are in preparation. The achievement of the Project Goal is largely dependent on the magnitude of institutional involvement from both parties.

6. RECOMMENDATION

(1) Improvement in the utilization of PCM group;

The status and the consensus of PCM group need to be consolidated, because it is a key to the reinforcement of DGCTC and its capacity. Moreover, active participation of the PCM group members is highly recommended for the amelioration in routine work coordination.

(2) Accumulation and utilization of know-how;

Both, the transferred know-how by the Japanese experts and the experiences gained by this Project, are essential to accomplish the overall goal of this Project. For example, trying to surpass improvements in the systematic procedures of project formulation and implementation is recommended.

(3) Linkage between the database system and the project management;

There is a strong need for the utilization of the database system for project management. The reinforcement of the institutional capability of DGCTC is well recognized through the implementation of this Project. It is also important to periodically review SICOI for effective use.

Título del proyecto : "Fortalecimiento Institucional del IMEXCI para el desarrollo de la cooperación Sur - Sur" (PDMe)
 Período de Ejecución : 1 /07 / 2000 al 30 / 06/ 2003
 Región objeto del Proyecto : México y América Latina y el Caribe
 Grupo Meta : Personal del IMEXCI, instituciones mexicanas ejecutoras e instituciones de América Latina y el Caribe

ANNEX I

Elaborado: 12/12/2002

RESUMEN NARRATIVO	INDICADORES	MEDIOS DE VERIFICACIÓN	SUPOSICIONES IMPORTANTES
<p><OBJETIVO DE DESARROLLO GLOBAL> México contribuye al desarrollo de la región de AL/C a través del IMEXCI.</p>			<ul style="list-style-type: none"> • La situación interna de los países de la región no cambiará.
<p><OBJETIVO ESPECÍFICO DEL PROYECTO> Se fortalece institucionalmente al IMEXCI como punto focal de cooperación, a fin de aprovechar esa capacidad para desarrollar la cooperación horizontal.</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. Hasta el final del Proyecto todas las Embajadas de México en Centroamérica y el Caribe aplican el "Check List" a las solicitudes de cooperación presentadas al Gobierno de México. 2. Hasta el final del Proyecto la Dirección de Cooperación Bilateral con Centroamérica y el Caribe de la DGCTC-IMEXCI bajo su iniciativa propone 2 (dos) proyectos piloto integral trilateral a JICA 3. Antes de junio de 2003 se realiza "pre-evaluación" de las propuestas en 2 (dos) Reuniones de Comisión Mixtas. 4. La DGCTC- IMEXCI aplica la metodología de PCM a los proyectos presentados por las Embajadas en Centroamérica y el Caribe. 5. La Dirección de Programas de Cooperación de Ejecución Nacional de la DGCTC-IMEXCI aplica el método de PCM en el diseño de cursos de capacitación para terceros países. 6. La Dirección de Programas de Cooperación de Ejecución Nacional de la DGCTC-IMEXCI emplea el "Check List" para la identificación de nuevos cursos para terceros países. 	<ul style="list-style-type: none"> • Informes de avance físico de la DGCTC-IMEXCI sobre los proyectos vigentes. • Encuesta. • Informes mensuales de Embamex en Centroamérica y el Caribe 	<ul style="list-style-type: none"> • El interés del IMEXCI por los países de AL/C no disminuirá.

<RESULTADOS>				
(1. Fortalecimiento de las funciones del IMEXCI) 1.1 Se establece el sistema de planeación, ejecución, monitoreo y evaluación de proyectos de cooperación internacional y se aplica. 1.2 Se desarrollan las bases de datos para la operación y administración de los proyectos. 1.3 El personal capacitado utiliza los medios descritos en 1.1 y 1.2. 1.4 El proyecto contribuye al establecimiento del SIMEXCI. (2. Fortalecimiento del apoyo a la cooperación sur sur) 2.1 Se establece un sistema para hacer eficiente el envío de expertos y la capacitación para terceros países. 2.2 Se establece un sistema para la ejecución de proyectos integrales trilaterales mexicano – japonés – terceros países	1.1.1 Se elaboran formatos de solicitud de proyectos, listas de verificación para la integración de la información correcta en los formatos de solicitud de proyectos, formato de informe de actividades, formato del informe final y lineamientos de evaluación.	1.1 al 1.4 Informe Anual del Proyecto.	• No se reducirán los presupuestos del gobierno mexicano para la cooperación internacional.	
	1.1.2 Un Coordinador General del Proyecto junto con el Grupo de PCM están asignados para supervisar y asegurar la realización del análisis de los proyectos solicitados, utilizando las listas de verificación.			
	1.1.3 Se realiza la evaluación de un proyecto de la Coop. Jap. en México antes de marzo de 2002 y un proyecto piloto Méx-Jap en 2002 hacia Centroamérica.			
	1.1.4 Por lo menos cinco funcionarios del IMEXCI forman el Grupo de PCM y fungen como moderadores en la realización de talleres de PCM, instructores del curso de capacitación de PCM, así como analistas de los proyectos importantes.			
	1.2 y 1.3 Más del 80% del personal del IMEXCI utiliza las bases de datos en sus trabajos diarios.	1.3 El sistema es utilizado para más de 80% de proyectos.	1.2 y 1.3 Número de consultas al sistema.	
	1.4 Más de 40 instituciones ejecutoras de la Cooperación Mexicana mantienen una relación de coordinación con el IMEXCI. Más de 80 instituciones están registradas en las bases de datos del IMEXCI.			
	2.1 Se realizan 30 envíos de expertos hacia terceros países por año.	2.1 Se realizan 5 proyectos integrales piloto en el marco de la Cooperación Sur-Sur.	2.1 Informe Anual del Proyecto.	
		2.2.2 Se elaboran los lineamientos para el diseño y ejecución de proyectos integrales piloto.	2.2 Número efectivo de proyectos integrales ejecutados, así como sus PDMs y sus usos. (Informe Anual del Proyecto.)	
		2.2.3 Se elaboran 5 PDMs de los proyectos integrales y se aplican para sumonitoreo y evaluación.		

<ACTIVIDADES>	INSUMOS		
	JICA	IMEXCI	
<p>[Establecimiento del sistema de formulación, operación, monitoreo y evaluación de proyectos de cooperación internacional]</p> <p>1.1.1 Establecer el grupo de PCM y definir sus términos de referencia.</p> <p>1.1.2 Analizar la operación actual y metodología que se emplea y revisar los formularios utilizados por el IMEXCI.</p> <p>1.1.3 Elaborar diferentes formatos de solicitud de proyectos</p> <p>1.1.4 Comparar los nuevos formatos con los ya existentes así como los procedimientos que actualmente utilizan en las direcciones de área respectivas y coordinar con ellas la elaboración de los formatos uniformes para todo el IMEXCI en la medida de lo posible.</p> <p>1.1.5 Desarrollar métodos de análisis y evaluación de proyectos propuestos de diversos tipos. (Elaborar un listado de verificación para el análisis de las propuestas por las áreas competentes a ser supervisado por el grupo de PCM para apoyar a la cooperación con Centroamérica y el Caribe así como para Sudamérica en su momento.)</p> <p>1.1.6 Celebrar seminarios y talleres sobre políticas y estrategias de cooperación, operación de proyectos y métodos de evaluación.</p> <p>1.1.7 Desarrollar métodos de monitoreo de proyectos de diversos tipos. (Con la Dirección de Coop. con C.A. y el Caribe como piloto.)</p> <p>1.1.8 Desarrollar y aplicar métodos de evaluación al término del proyecto y post-proyecto. (Con la Dirección de Coop. con C.A. y el Caribe como piloto.) (Realizar estudios de evaluación sobre un proyecto de la Coop. Jap. Bilateral con México en el año 2001, y un proyecto integral piloto Méx-Jap. con Centroamérica en el año 2002.)</p> <p>1.1.9 Llevar a cabo las actividades de capacitación sobre los temas arriba mencionados al personal del IMEXCI, de las embajadas de México y las instituciones ejecutoras. (Con la Dirección de Coop. con C.A. y el Caribe como piloto, en casos de las embajadas de México y las instituciones ejecutoras.)</p> <p>1.1.10 Retroalimentar las experiencias obtenidas en el sistema para su mejoramiento.</p> <p>1.1.11 Elaborar el informe anual del Proyecto.</p> <p>[Construcción de las bases de datos]</p> <p>1.2.1 Establecer los términos de referencia de las bases de datos.</p> <p>1.2.2 Formar un equipo de trabajo integrado por un técnico informático (permanente), un asesor de la Dirección General de la Comunicaciones e Informática de SRE y los funcionarios de IMEXCI quienes tengan buenos conocimientos sobre PCM y las Bases de Datos, con miras a supervisar el desarrollo de las bases de datos y posteriormente administrar y mantenerlas permanentemente.</p> <p>1.2.3 Desarrollar las bases de datos</p> <p>1.2.4 Realizar la capacitación del personal del IMEXCI relacionado con la administración de los proyectos de cooperación.</p> <p>1.2.5 Elaborar manuales de operación y mantenimiento de las bases de datos.</p>	<p>[Envío de expertos]</p> <p><u>Expertos de largo plazo</u> (Mínimo 2):</p> <ul style="list-style-type: none"> • Sistema de cooperación internacional: 3 años. • Operación y administración de proyectos: 3 años. • Política de Cooperación: 3 años <p><u>Expertos de corto plazo</u> (Promedio 4 anuales, y otros más cuando sea necesario):</p> <ul style="list-style-type: none"> • Sistema de Información (Base de Datos) • Evaluación de proyectos. • Diseño de indicadores de cooperación <p>[Capacitación de personal mexicano en Japón]</p> <p>5 al año sobre gerencia de cooperación internacional</p> <p>[Equipos]</p> <ul style="list-style-type: none"> • Equipos para capacitación (proyector, computadoras, etc.). • Gastos para la elaboración de las bases de datos (Costo compartido con el 70%). • Otros equipos necesarios 	<p>[Personal]</p> <ul style="list-style-type: none"> • Director Nacional del Proyecto: (1) • Coordinador General(1) • Coordinador(es) en Capacitación, Bases de Datos, y el Sistema de Admón. de Proyectos • Un Técnico Informático para la admón. de las Bases de Datos. (Tiempo completo y permanente.) • Grupo de PCM (Para ser entrenados) (Se va a convertir en el grupo de moderadores y capacitadores de PCM.) • Personal del IMEXCI para el desarrollo de la cooperación sur – sur. • Expertos y funcionarios de las instituciones mexicanas participantes en la cooperación sur – sur. • Personal participante de los cursos de capacitación <p>[Instalaciones y equipos]</p> <ul style="list-style-type: none"> • Espacio de oficina, materiales y equipos necesarios. • Espacio para las actividades de capacitación. • Aprovechar la infraestructura, equipos y materiales existentes en las instituciones mexicanas para la ejecución de los proyectos y acciones • Equipo, material y recursos necesarios para la realización del proyecto • Gastos para la elaboración de las bases de datos (Costo compartido con el 30% (15% el IVA, 15% el costo)). 	<ul style="list-style-type: none"> • Se mantendrá en las respectivas organizaciones el personal capacitado. • Se mantendrán estables los miembros del equipo del proyecto. • Se mantendrá la decisión de las organizaciones participantes del SIMEXCI de colaborar en las actividades de cooperación internacional. • El presupuesto y personal necesarios para asegurar buen mantenimiento de las Bases de Datos estarán siempre asegurados.

Handwritten signature or initials in the bottom left corner of the page.

<p>[Fortalecimiento de la capacidad del personal involucrado]</p> <p>1.3.1 Diseñar y planificar cursos de capacitación para el personal del IMEXCI en áreas de interés.</p> <p>1.3.2 Capacitar al personal del IMEXCI sobre los aspectos relevantes de la gestión de la cooperación internacional.</p> <p>[Desarrollo del mecanismo del SIMEXCI]</p> <p>1.4.1 Utilizar la Base de Datos de Administración de la Cooperación.</p> <p>1.4.2 Elaborar y aplicar encuestas de instituciones mexicanas cooperantes.</p> <p>1.4.3 Actualizar periódicamente los bancos de datos de instituciones mexicanas cooperantes.</p> <p>[Comunicación y divulgación con diversos sectores sociales]</p> <p>[Fortalecimiento del envío de expertos y de cursos de capacitación para terceros países]</p> <p>2.1.1 Revisar y perfeccionar procedimientos adecuados para cada uno de estos esquemas, y elaborar los manuales.</p> <p>2.1.2 Capacitar al personal involucrado del IMEXCI, las embajadas mexicanas, los agentes coordinadores de cooperación internacional y las oficinas de la JICA en los países receptores.</p> <p>2.1.3 Analizar el proceso arriba mencionado y ofrecer sugerencias pertinentes.</p> <p>[Realización de los proyectos integrales piloto mexicano - japonés]</p> <p>2.2.1 Seleccionar las áreas adecuadas y las instituciones ejecutoras apropiadas.</p> <p>2.2.2 Enviar misiones de identificación y formulación de proyectos integrales</p> <p>2.2.3 Diseñar y aplicar los mecanismos adecuados para la realización de este tipo de proyectos.</p> <p>2.2.4 Evaluar los proyectos y medir sus impactos.</p> <p>2.2.5 Revisar todos los procesos arriba mencionados y retroalimentar sus resultados.</p> <p>2.2.6 Intercambiar opiniones con otras instituciones gestoras con experiencia en la cooperación trilateral.</p> <p>2.2.7 Presentar propuestas y recomendaciones a los gobiernos de México y Japón sobre la importancia de la institucionalización del modelo de ejecución de proyectos integrales de cooperación trilateral.</p>	<p>[Gastos locales]</p> <ul style="list-style-type: none"> • Gastos de cursos de capacitación, seminarios y talleres • Misiones para la formulación y evaluación del proyecto. • Gastos para la elaboración de las bases de datos. • Recursos complementarios para la realización de las acciones puntuales y los proyectos integrales piloto de cooperación trilateral. • Intercambio de opiniones con otras organizaciones que realizan cooperación trilateral. • Gastos de contratación de consultores (4 por mes x 1/2 - costos compartidos). • Otros gastos <p>[Informaciones]</p> <ul style="list-style-type: none"> • Informaciones sobre los distintos ámbitos de la cooperación internacional <p>[Envío de expertos para terceros países]</p> <ul style="list-style-type: none"> • Presupuesto para alrededor de 30 envíos anuales (Acciones puntuales) 	<p>[Gastos locales]</p> <ul style="list-style-type: none"> • Gastos para cursos de capacitación, seminarios y talleres • Misiones para la formulación y evaluación del proyecto. • Presupuesto para la realización de los proyectos piloto de cooperación mexicana. • Recursos complementarios para la realización de las acciones puntuales y los proyectos integrales piloto de cooperación trilateral. • Intercambio de opiniones con otras organizaciones que realizan cooperación trilateral. • Otros gastos 	<ul style="list-style-type: none"> • No se cambiarán las políticas del gobierno mexicano hacia este proyecto, por el cambio de administración.
			<p>(Condiciones previas)</p> <p>El IMEXCI cubre no menos de 15 % del costo para la compra de los bienes.</p>

LIST OF JAPANESE EXPERTS

NAME	FIELD	PERIOD
LONG-TERM EXPERTS		
Mr. Michiyuki Shimoda	International Cooperation System	2000/07/30 - 2001/07/29
Mr. Akira Nagamachi	International Cooperation Project Management	2001/03/29 - 2003/03/28
Mr. Nobutetsu Enoshita	International Cooperation Policy and Trilateral Cooperation	2001/07/30 - 2003/07/29
Mr. Kazunori Kikuchi	International Cooperation System	2002/03/29 - 2003/06/30
SHORT-TERM EXPERTS		
Mr. Tsuneki Hori	Data Base System	2000/10/18 - 2001/03/14
Mr. Tsuneki Hori	Data Base System	2001/07/01 - 2001/07/29
Ms. Jyunko Noguchi	International Cooperation Indicator design	2000/05/08 - 2000/05/20
Ms. Naomi Okada	International Cooperation Project Evaluation	2000/08/10 - 2000/10/28
To be decided	International Cooperation Indicator design	To be decided
To be decided	International Cooperation Project Evaluation	To be decided

LIST OF COUNTERPARTS

DGCTC-SRE

NOMBRE	CARGO	TEL	EXT	FAX	E-MAIL
MIN. GERARDO LOZANO ARREDONDO	DIRECTOR GENERAL	5327 3290	3618	5241 3484	glozano@sre.gob.mx
SONIA RENDON TALAVERA	ASESORA DEL DIRECTOR GENERAL		3600	5241 3437	
LIC. ENRIQUE BACMEISTER	ASESOR DEL DIRECTOR GENERAL		3415		
LIC. MIGUEL ANGEL GEORGE CRUZ	SECRETARIO PARTICULAR	5241 3473	3616	5241 3484	
ROGELIA GARCIA JUAREZ	SECRETARIA DE LA DIRECCION GENERAL	5327 3290	3618		
MARIA TERESA NIETO BENITEZ	SECRETARIA DE LA DIRECCION GENERAL	5241 3473	3618		tnieto@sre.gob.mx
AGUSTIN MARTINEZ MORALES	OFICIAL DE TRANSPORTE		3243		
JUAN AGUILAR ISLAS	MENSAJERO		3619		
FERNANDO RODRIGUEZ	ENCARGADO DE CORRESPONDENCIA		3818		
MIGUEL FERMAN	JEFE DE DEPARTAMENTO DE ARCHIVO Y CORRESPONDENCIA		3608		mferman@sre.gob.mx
TAIDE ROJAS GUZMAN	CORRESPONDENCIA		3619		
SUSANA MUJOS BASTIDA	SECRETARIA				
GABRIELA MACIAS	ARCHIVO		3619		
LOURDES OSORIO GONZALEZ	ARCHIVO				
DIRECCION DE PROGRAMAS DE COOPERACION DE EJECUCION NACIONAL					
LIC. MARIA CRISTINA RUIZ RUIZ	DIRECTORA	5241 3306		5241 3484	cruiz@sre.gob.mx
MARIA DE LA PAZ BAUTISTA	SECRETARIA DE LA DIRECTORA		3624		mbautistac@sre.gob.mx
EFRAIN DEL ANGEL RAMIREZ	SUBDIRECTOR DE PROGRAMAS Y CONVENIOS	5241 3302	3614	5241 3437	edelangel@sre.gob.mx
PATRICIA VARGAS SEVILLA	SECRETARIA		3614	5242 3437	pvargas@sre.gob.mx
DANIEL GONZALEZ GONZALEZ	SUBDIRECTOR DE PROGRAMAS ESPECIALES DE EJECUCION NACIONAL		3604	5241 3484	
MARTHA BRAMBILA FAUSTO	SUBDIRECTORA PARA EUROPA		3301		mbrambila@sre.gob.mx
CONCEPCION ALVAREZ	JEFE DE DEPARTAMENTO DE ORGANISMOS INTERNACIONALES DEL SISTEMA DE NACIONES UNIDAS		3606		aconcepcion@sre.gob.mx
SUNICA SANTIESTEBAN	ANALISTA PARA JAPON Y EUA (BECAS JICA Y CURSOS PARA TERCEROS PAISES)		3613	5241 3484	ssantiesteban@sre.gob.mx
VERONICA ZAMORA	ANALISTA PARA JAPON Y EUA (CURSOS PARA TERCEROS PAISES)		3607	5241 3484	vzamora@sre.gob.mx
MONICA TORRES IBARRA	ANALISTA				
DIRECCION DE COOPERACION Y PROYECTOS BILATERALES					
MIN. JUAN MUJNO KIELMAN	DIRECTOR	5241 3307	3307	5241 3484	imuino@sre.gob.mx
LIC. LUIS GARCIA Y ERDMAN	SUBDIRECTOR PARA EUROPA CENTRAL Y DEL ESTE	5241 3309	3309		lgarciae@sre.gob.mx
- VACANTE -	SUBDIRECTOR/A PARA ASIA-PACIFICO Y OCEANIA				
LIC. ANTONIO LEON ZARATE	JEFE DEPARTAMENTO AMERICA DEL SUR I		3609		aleon@sre.gob.mx
NANCY DE LA CRUZ	ANALISTA DE PAISES DE SUDAMERICA		3621		ndelacruz@sre.gob.mx
GUADALUPE ANDRADE MONTIEL	ANALISTA PARA PAISES DE SUDAMERICA		3622		gandrade@sre.gob.mx
CARLOS ESCARTIN	ANALISTA PARA PAISES DE EUROPA ORIENTAL Y ASIA CENTRAL		3612		cescartin@sre.gob.mx
HERMILA AGUILAR	SECRETARIA DE LA DIRECCION		3622	5578 5616	
VICTORIA SALINAS TOVAR	SECRETARIA DE LA DIRECCION		3625	5762 9026	
DIRECCION DE COOPERACION MULTILATERAL					
LIC. JESUS VELASQUEZ CASTILLO	DIRECTOR	5241 3305	3305		jvelazquez@sre.gob.mx
ERIKA JIMENEZ JIMENEZ	SECRETARIA DEL DIRECTOR DE COOPERACION MULTILATERAL		3615		blopez@sre.gob.mx
HECTOR URIBE CERON	SUBDIRECTOR PARA ORGANISMOS	5241 3303	3303		uribe@sre.gob.mx
MA. TERESA SANTIESTEBAN	ANALISTA PARA FOROS MULTILATERALES		3602		mfernandez@sre.gob.mx
ROGELIO HERNANDEZ	CONSULTOR PNUD INFORMATICA		3610		
ANA AYALA	ANALISTA OEA, CUMBRE IBERO, G-15		3602		
MARIA ANTONIETA AGUILAR ROMERO	ANALISTA				
DIRECCION DE COOPERACION REGIONAL CON CENTROAMERICA					
- VACANTE -	DIRECTOR/A	5241 3416	3416	5241 3483	
Lic. GABRIEL SIRNES MANCERA	SUBDIRECTOR DE COOPERACION REGIONAL	5241 3419	3419	5241 3483	gsirnesm@sre.gob.mx
SALVADOR ROSAS	SUBDIRECTOR ADMINISTRATIVO		3310		
HILDA SUAREZ LIRA	JEFA DEL DEPARTAMENTO DE COOPERACION REGIONAL Y PROYECTOS		3804		hsuarez@sre.gob.mx
ROSA MARTINEZ RIVERO	JEFA DEL DEPARTAMENTO DE REUNIONES		3809		martinezr@sre.gob.mx

RAUL SALDANA TREJO	JEFE DEL DEPARTAMENTO DE ARCHIVO		3814		raul@sre.gob.mx
MA. DE LOURDES RAMIREZ	SECRETARIA		3813		mr Ramirez@sre.gob.mx
COOPERACION BILATERAL CON CENTROAMERICA Y EL CARIBE					
Lic. SONIA GONZALEZ AGUIRRE	DIRECTORA	5241 3418	3418	5327 3201	sgonzalez@sre.gob.mx
Lic. DAVID REGALADO JIMENEZ	SUBDIRECTOR PARA CENTROAMERICA	5241 3421	3421		dregalado@sre.gob.mx
CRISTINA ISLAS FUENTES	JEFA DEL DEPARTAMENTO PARA PANAMA, EL SALVADOR Y OEA		3810		cislas@sre.gob.mx
RODRIGO MELÉNDEZ	ANALISTA DE DEPARTAMENTO PARA HONDURAS Y GUATEMALA		3811		rmelendez@sre.gob.mx
DAMARIS FUENTES	ANALISTA PARA BELICE Y NICARAGUA		3812		dfuentes@sre.gob.mx
CAROLINA GÓDINEZ RODRÍGUEZ	SECRETARIA DE LA DIRECCIÓN DE COOPERACIÓN		3814		cgodinez@sre.gob.mx
ROSALÍA ENCISO GONZALEZ	SUBDIRECTORA PARA EL CARIBE		3805		renciso@sre.gob.mx
JOSE ALBERTO HERRERA	JEFE DEL DEPARTAMENTO DE LA AEC, CARICOM Y UIO		3816	5327 3203	jherreram@sre.gob.mx
SANTOS RAFAEL GÓMEZ MENDOZA	SUPERVISOR DE PROGRAMAS Y PROYECTOS CON CUBA		3803		
SYULAN WONG PEREZ	ANALISTA PARA PROGRAMAS DE COOPERACIÓN SUR-SUR CON C.A.		3737		swong@sre.gob.mx
HEIDI JAIMES DIAZ	ANALISTA DE COOPERACIÓN BILATERAL		3750		hjaimes@sre.gob.mx

Handwritten marks, possibly initials or a signature, located at the bottom left of the page.

TRAINING OF COUNTERPARTS IN JAPAN
JICA Special Training Course (Management of Technical Cooperation Program)

FY JP	Period	Name of Participants	Position	Observations
1999	9-27/Nov	David Regalado Jiménez	Sub-director, Dept. of Bilateral Cooperation for Central America and the Caribbean, S.R.E.	
		María Teresa Cabrero Díaz	Analyst, Mexican Commission of Cooperation for Central America and the Caribbean, S.R.E.	
		Sara Esther Ramos Ruiz	Analyst, Mexican Commission of Cooperation for Central America and the Caribbean, S.R.E.	
		Simón Gregorio Trejo Santos	Sub-director, Ministry of Health	Ministry of Health
		Gabriel Sirnes Mancera	Sub-director, Dept. of Regional Cooperation for Central America, S.R.E.	
2000	7/Nov-2/Dec	Tomás Olvera López	Director, Dept. of OECD, S.R.E.	Ministry of Education
		Mónica Gabriela Friedrich López	Director, Dept. of Economic Cooperation, S.R.E	Ministry of Education
		María Beatriz García Fírol	Analyst, IMEXCI, S.R.E.	National Institute for Immigration
		Sergio Sierra Bernal	Director, Dept. of Culture and Educational Agreement, S.R.E.	Diplomat
		María Luisa Zimbrón Pardo	Sub-director, Dept. of Educational Cooperation for Latin America and the Caribbean, IMEXCI, S.R.E.	Dept. of Cultural Affairs
2001	13/Nov-8Dec	María Cristina Islas Fuentes	Chief of Cooperation Programs for Costa Rica, El Salvador, and Panama, Dept. of Bilateral Cooperation for Central America and the Caribbean, IMEXCI, S.R.E.	
		Gabriela De la Peña Romero	Deputy Director for Asia Pacific and Oceania, Dept. of Bilateral Programs for South America, Asia, etc., DGCTC, S.R.E.	Director, Mexican Institute, S.R.E.
		Martha Laura Brambila Fausto	Deputy Director for Europe, Dept. of Domestic Cooperation Programs, IMEXCI, S.R.E.	
		Efraín Del Angel Ramírez	Deputy Director for Agreements and Programs, Dept. of Domestic Cooperation Programs, IMEXCI, S.R.E.	
		Héctor Antonio Uribe Cerón	Deputy Director for Multilateral Organizations, Dept. of Multilateral Cooperation, IMEXCI, S.R.E.	
2002	14/Nov-5/Dec	Verónica Zamora Aguilar	Analyst, Dept. of Domestic Cooperation Programs, DGCTC, S.R.E.	
		Súnica Santiesteban Jiménez	Analyst, Dept. of Domestic Cooperation Programs, DGCTC, S.R.E.	
		Nancy De la Cruz González	Analyst, Dept. of Bilateral Programs for South America, Asia, etc., DGCTC, S.R.E.	
		Rodrigo Meléndrez Armada	Chief of Cooperation Programs for Guatemala and Honduras, Dept. of Bilateral Cooperation with Central America and the Caribbean, DGCTC, S.R.E.	
		José Alberto Herrera Morales	Chief of Cooperation Programs for AEC, CARICOM and UIO, Dept. of Bilateral Cooperation with Central America and the Caribbean, DGCTC, S.R.E	

LIST OF EQUIPMENT

1) Resumen de Equipos

	Clasificación	Valor (US\$)	Observaciones
A)	Equipos procurados por el Experto - Shinoda	-	PCs, Software, Proyector, etc.
B)	Equipos procurados por los Expertos en acción (Enoshita, Nagamachi, Kikuchi)	-	
a)	Equipos exclusivamente para Expertos Japoneses (JP: Procurado en Japón, MX: Procurado en México)	más de 8,000.00	PCs, Software, Proyector, etc.
b)	Equipos procurados por el Fondo Operativo del Proyecto	1,000.00	10,067 M.N. Caja de Seguridad, Fax, etc.
C)	Costo para el Desarrollo del Banco de Datos	44,257.00	

A) Equipos procurados por Experto Shimoda

Categoría	Item	Marca	Modelo	Característica	Cantidad	Depositario	Estado	Obs.
Aparato	Calculadora	Canon	P120-DH	-	1	Nagamachi	-	
Aparato	Computadora	Apple Computer	Mac Powerbook i1400	Laptop, 1996	1	Kikuchi	-	●
Aparato	Computadora	Fujitsu	FMV Deskpower CVIII 35 L	Desktop, 1998	1	Nagamachi	-	●
Aparato	Computadora	Toshiba	Satellite Pro 4300	Laptop	1	Nagamachi	En uso	
Aparato	Computadora	Toshiba	Satellite Pro 4600	Laptop	1	IMEXCI (Regalado)	En uso	
Aparato	UPS	American Power Conversion	Smart UPS1400	-	1	Nagamachi	-	
Aparato	Gravadora de CD	Yamaha	CRW4416sx	SCSI externa	1	Nagamachi	-	
Aparato	Impresora	HP	Deskjet 350 CBi	Bubble Jet	1	Nagamachi	-	
Aparato	Impresora	Canon	BJC35V-II	Bubble Jet	1	IMEXCI (Regalado)	En uso	
Aparato	Impresora	HP	Deskjet 895CXI	Multifuncional	1	IMEXCI (Regalado)	En uso	
Aparato	Lampara de escritorio	Swing arm	Ps13w	color negro	1	Kikuchi	En uso	
Aparato	Multiproyector	Epson	Power Lite 5550C	portatil	1	Enoshita	En uso	
Aparato	Escaneador	Microtec	Scanmaker V600	-	1	Nagamachi	-	
Aparato	Transformador	Sugano Electric Lab. Ltd.	1500AU	-	1	Nagamachi	-	
Aparato	Unidad de Disco Optico	lomega	Jaz	-	1	Nagamachi	-	
Muebles	Estante de madera	-	-	alto	1	Nagamachi	En uso	
Muebles	Estante de madera	-	-	alto	1	Enoshita	En uso	
Muebles	Estante de madera	-	-	ancho	1	Nagamachi	En uso	
Muebles	Estante de madera	-	-	bajo	1	Kikuchi	En uso	
Muebles	Silla	-	-	color negro	1	Nagamachi	En uso	
Software	Aplicación	Just Systems	Atok 23	Win, japonés	1	Kikuchi	-	●
Software	Aplicación	Filemaker	Filemaker Pro V.4	Mac, japonés	1	Kikuchi	-	J
Software	Aplicación	Filemaker	Filemaker Pro V.4	Win, japonés	1	Kikuchi	En uso	J
Software	Aplicación	Just Systems	Ichitaro	Mac, japonés	1	Kikuchi	-	J
Software	Aplicación	Inspiration software Inc.	Inspiration	Win/Mac, inglés	1	Kikuchi	-	
Software	Aplicación	Symantec	Norton Utilities	Mac, japonés	1	Kikuchi	-	J
Software	Aplicación	Microsoft	Office Professional 97	Win, japonés	1	Kikuchi	-	●
Software	Aplicación	Microsoft	Office Professional 2000	Win, japonés	1	Kikuchi	En uso	J
Software	Aplicación	Dr. Solomon's	Virex	Mac, japonés	1	Kikuchi	-	
Software	Aplicación	Microsoft	Visio 2000	Win, español	1	Kikuchi	En uso	J
Software	Systema Operativo	Microsoft	Windows 2000 Professional	Win, japonés	1	Kikuchi	-	
Otros	Maleta 1	-	-	para proyector	1	Enoshita	En uso	
Otros	Maleta 2	-	-	para computadora	1	Nagamachi	-	
Otros	Maleta 3	-	-	para computadora	1	Nagamachi	-	

●: Equipo muy obsoleto, J: Versión Japonesa

B) Equipos procurados por Expertos (Enoshita, Nagamachi, Kikuchi, expertos de corto plazo)

No.	Categoría	Item	Marca	Modelo	Característica	Cantidad	Depositario	Estado	Obs.
a) Equipos exclusivamente para Expertos Japoneses (JP. Procurado en Japón, MX. Procurado en México)									
Nagamachi	Aparato JP	Camara Digital	Olympus	Camedia C990 zoom	-	1	Nagamachi	En uso	04/2001
	Aparato JP	Computadora	Toshiba	Dynabook satellite2801	Laptop	1	Nagamachi	En uso	04/2001
	Aparato JP	Estabilizador	American Power Conversion	BF250J	-	1	Nagamachi	En uso	04/2001
	Aparato JP	Impresora	Canon	BJ F6600	Bubble jet a color	1	Nagamachi	En uso	04/2001
	Aparato JP	Transformador	Matsunaga	SVC-600NL	-	1	Nagamachi	En uso	04/2001
	Software JP	Aplicación	Symantec	Norton Antivirus 2001	Win, japonés	1	Nagamachi	En uso	04/2001
	Software JP	Aplicación	Microsoft	Power Point 2000	Win, japonés	1	Nagamachi	En uso	04/2001
Noguchi	Aparato JP	Video camara	Sony	Dcr TRV 30	-	1	Nagamachi	En uso	12/2001
Enoshita	Aparato JP	Computadora	IBM	ThinkPad iseries 1800	Laptop	1	Enoshita	En uso	07/2001
	Aparato JP	Impresora	Canon	BJC 70	Bubble Jet	1	Enoshita	En uso	07/2001
Kikuchi	Aparato MX	Computadora	HP	Pavillion 790k	Desktop	1	Kikuchi	En uso	03/2002
	Aparato MX	Impresora	HP	Laser Jet 1200	Laser	1	Kikuchi	En uso	03/2002
	Software JP	Sistema Operativo	Microsoft	Windows XP Professional	-	1	Kikuchi	En uso	06/2002
b) Equipos procurados por el Fondo Operativo del Proyecto AF2002									
21/05/2002	Aparato	Impresora	Brother	MFC-4800	Multifuncional	1	Enoshita	En uso	4,589 M.N.
21/05/2002	Aparato	Trituradora	Fellows	PS60-2	-	1	Nagamachi	En uso	1,399 M.N.
21/05/2002	Mueble	Estante con Llave	-	-	2 puertas	1	Kikuchi	En uso	2,559 M.N.
21/05/2002	Otros	Caja de Seguridad	Century	V260	1 puerta	1	Enoshita	En uso	1,520 M.N.

C) Costo del Desarrollo del Banco de Datos

No.	Fase	Período	Proveedor	Costo (US\$)	Observaciones
1	Fase 1	Mar/1999	Soluciones Comptacionales Integradas, S.A.	9,100.00	
2	Fase 2	Jun/2000	Servicios tecnológicos Aplicados, S.C.	4,600.00	
3	Fase 3	Oct-Dic/2000	Hildebrando, S.A. de C.V.	11,400.00	114,000 M.N.
4	Fase 4	Feb-Mar/2001	Hildebrando, S.A. de C.V.	19,157.00	191,571.60 M.N.
Total				44,257.00	

BUDGETARY INPUT FOR THE PROJECT BY DGCTC

THE ESTIMATED AMOUNT: 17,692US\$ + OFFICE SPACE

(1) Estimated Cost for Office Supplies

Period	Description	Estimated Unit Price	Estimated Cost	Observations		
YEAR 2000(since Jul/30-Dec) Shimoda (5m)	Office space for expert	Unknown	-	3.5mx2.7m		
	Telephone	300 pesos/m	1,500 pesos	5,500 pesos +		
	Internet access	100 pesos/m	500 pesos			
	Office supplies	100 pesos/m		Office space	desks, chairs, stationary goods, etc.	
	Access to water & electricity	100 pesos/m				
	Garage space	700 pesos/m	3,500 pesos		For 1 automobile	
YEAR 2001 Shimoda (7m, until Jul/29) Nagamachi (9m, since Mar/29) Enoshita (5m, since Jul/29)	Office space for expert	Unknown	-	30,900 pesos +	3.5mx2.7m, 3.5mx2.5m	
	Telephone	300 pesos/m	$2,100 + 6,300 + 1,500 = 9,900$ pesos	Office space (including conference room for PDM, 10mx10m, 3 days x 2 times)	desks, chairs, stationary goods, etc.	
	Internet access	100 pesos/m	$700 + 900 + 500 = 2,100$ pesos			
	Office supplies	100 pesos/m	$700 + 900 + 500 = 2,100$ pesos			
	Access to water & electricity	100 pesos/m	$700 + 900 + 500 = 2,100$ pesos			
	Garage space	700 pesos/m	$4,900 + 6,300 + 3,500 = 14,700$ pesos		For 2 automobiles	
YEAR 2002 Nagamachi (12m, whole year) Enoshita (12m, whole year) Kikuchi (9m, since Mar/29)	Office space for expert	Unknown	-	36,000 pesos +	3.5mx2.5m, 2.7mx3m, 2.7mx2.7m	
	Telephone	300 pesos/m	$3,600 + 3,600 + 2,700 = 9,900$ pesos		Office space	desks, chairs, stationary goods, etc.
	Internet access	100 pesos/m	$1,200 + 1,200 + 900 = 3,100$ pesos			
	Office supplies	100 pesos/m	$1,200 + 1,200 + 900 = 3,100$ pesos			
	Access to water & electricity	100 pesos/m	$1,200 + 1,200 + 900 = 3,100$ pesos			
	Garage space	700 pesos/m	$8,400 + 8,400 = 16,800$ pesos		For 2 automobiles	
YEAR 2003(until Jun/30) Nagamachi (3m, until Mar/28) Enoshita (7m, until Jul/28) Kikuchi (6m, until Jun/28)	Office space for expert	Unknown	-	16,600 pesos +	3.5mx2.5m, 2.7mx3m, 2.7mx2.7m	
	Telephone	300 pesos/m	$900 + 2,100 + 1,800 = 4,800$ pesos		Office space	desks, chairs, stationary goods, etc.
	Internet access	100 pesos/m	$300 + 700 + 600 = 1,600$ pesos			
	Office supplies	100 pesos/m	$300 + 700 + 600 = 1,600$ pesos			
	Access to water & electricity	100 pesos/m	$300 + 700 + 600 = 1,600$ pesos			
	Garage space	700 pesos/m	$2,100 + 4,900 = 7,000$ pesos		For 2 automobiles	

(Memo)

- TOTAL ESTIMATED COST PROVIDED BY SRE-DGCTC FOR OFFICE SUPPLIES = 89,000 pesos (approximately equivalent to 8,900 US\$) + Office Space
- ESTIMATED BY JICA MEXICO OFFICE

(2) Expense for JP-MX Joint Mission

Program	Period	Concept	Approx. Cost
Nicaragua: JP-MX Joint Project Identification and Formulation Mission (Integrated plague control)			
<i>Project Formulation Study + PDM Elaboration</i>	<i>Aug/19-Aug/26/2001</i>	<i>airfare, per diem & accommodation (1 IMEXCI official, 7 nights)</i>	<i>2,250 US\$</i>
<i>Project Planning Study</i>	<i>Jul/09-Jul/13/2002</i>	<i>Non</i>	<i>-</i>
<i>Project Implementation</i>	<i>Jan-Feb/2003 (tentative)</i>	<i>Non</i>	<i>-</i>
El Salvador: JP-MX Joint Project Identification and Formulation Mission (Disaster measures)			
<i>Project Formulation Study + PDM Elaboration</i>	<i>Mar/20-Mar/28/2001</i>	<i>airfare, per diem & accommodation (1 IMEXCI official, 3 nights)</i>	<i>2,250 US\$</i>
<i>Project Planning Study</i>	<i>Oct/08-Oct/10/2002</i>	<i>Non</i>	<i>-</i>
Cuba: JP-MX Joint Project Identification Mission (Energy Development and Environmental Protection)			
<i>Project Identification Study</i>	<i>Feb/11-Feb/16/2002</i>	<i>airfare, per diem & accommodation (1 IMEXCI official, 4 nights)</i>	<i>1,150 US\$</i>
Chile: JP-MX Joint Inspection Mission (Chilean International Cooperation Agency - AGCI)			
<i>Inspection Mission</i>	<i>Mar/31-Apr/03/2002</i>	<i>Non</i>	<i>-</i>
Honduras: JP-MX Joint Project Formulation Mission (Aquaculture and Community Development)			
<i>Preliminary Study</i>	<i>Oct/27-Nov/02/2002</i>	<i>airfare, per diem & accommodation (1 Mexican expert, 6 nights)</i>	<i>1,750 US\$</i>
<i>PDM Elaboration</i>	<i>Jan/2003 (tentative)</i>		
Costa Rica: JP-MX-AR-CL Joint Project Formulation Mission (Energy Development and Environmental Protection)			
<i>Preparatory Meeting in Mexico</i>	<i>Aug/13-Aug/16/2002</i>	<i>airfare, 2 accommodation for 4 Costa Rican experts</i>	<i>304 US\$</i>
<i>Inspection Mission and Complementary Cooperation</i>	<i>Oct/27-Nov/09/2002</i>	<i>airfare, per diem & accommodation (1 Mexican expert, 4 nights)</i>	<i>1,088 US\$</i>
Bolivia: JP-MX Joint Project Identification Mission (Distant Education and Mechanical Engineering)			
<i>Project Identification Study</i>	<i>May/28-Jun/01/2002</i>	<i>Non</i>	<i>-</i>
Peru: JP-MX Joint Project Identification Mission (Environmental Protection - River Engineering for Basin Protection)			
<i>Project Identification Study</i>	<i>Jun/01-Jun/06/2002</i>	<i>Non</i>	<i>-</i>
TOTAL			8,792US\$

(Memo)

- ESTIMATED BY JICA MEXICO OFFICE
- INCLUDING ONLY AIRFARE, PER DIEM AND ACCOMMODATION

ACHIEVEMENT OF ACTIVITIES

Plan	Achievements of Activities
1. Strengthening DGCTC's Institutional Capacity for the Mexico's International Cooperation	
1.1. Establishment of systematic project planning, implementation, monitoring, and evaluation mechanism	
1) Establishment of PCM Group / Preparation of T/R for PCM method practices	Implemented *PCM manual (Spanish version), case for training (video and textbook) , and Instruction material were produced. *Five (5) PCM group members and one (1) Group coordinator were nominated. The group is now in the process of determining T/R for PCM method practices.
2) Revision of the existing project implementation procedure	Implemented
3) Modification of the existing project application forms	Implemented
4) Comparison between existing and revised project application forms (Introducing common project application forms is highly recommended)	Existing and revised project application forms were compared and common project application forms were considered. Because types of cooperation and its procedures vary from division to division, it is concluded that the application of common formats are not feasible in DGCTC.
5) Development of project application analysis and evaluation method	Due to the delay in the establishment of the PCM group, this activity has not been implemented yet. The activity will be incorporated into T/R practices of the PCM group in due course.
6) Seminar on international cooperation policy and strategy, and project planning and evaluation	Ten (10) PCM planning workshops were held and a common consensus on the necessity of the project planning was acknowledged in DGCTC. As for the seminar on international cooperation policy and strategy, it has not been realized yet.
7) Development of monitoring method and its practical use (The method was applied at the department of Bilateral Cooperation with Central America and Caribbean as a pilot.)	Two (2) monitoring & evaluation workshops were held and a common consensus on the necessity of the project monitoring was acknowledged in DGCTC. The practical use of the monitoring method will be further considered by the PCM group.
8) Development of post evaluation method and its practical use (The method was applied at the department of Bilateral Cooperation with Central America and Caribbean as a pilot.). Evaluation study was conducted for Japan's bilateral cooperation with Mexico in FY2001, In FY 2002, Japan - Mexico - Recipient country pilot project was evaluated.	Development of post evaluation method and its practical use are still in process. One of Japan's bilateral projects in the agricultural sector with Mexico was evaluated.
9) Seminars on the above activities for DGCTC staff and Mexican embassies, and executing agencies were conducted (Seminars for Mexican embassies and executing agencies were conducted with the department of Bilateral Cooperation with Central America and Caribbean)	PCM planning workshops were held In March 2001, PCM monitoring and evaluation workshop was held for executing agencies. In November 2002, PCM planning workshop was held for embassy staff of Mexico in Central America and Caribbean Countries.
10) Revision of and feedback for the established Mexican international cooperation mechanism	It is in a process
11) Preparation of annual project activity report	It is not completed

1-2. Database system development for better project administrations		
1)	Database system design	The database system was developed and donated. However, the system one of the equipments donated by Japan side did not function well as expected. The DGCTC newly developed a web-based database system (SICOI). SICOI is still in a process of data- input. The PDM concept introduced by the original database is transferred into SICOI.
2)	Workgroup formulation for database system development	
3)	Database system development	
4)	Personnel training using the developed database system	
5)	Preparation of operational manual for the database system	
1-3. DGCTC's personnel training		
1)	Development of DGCTC's personnel training programs	Two (2) sessions in COCO 5th and 6th (Topics: JICA's personnel training and Japanese ODA) were conducted.
2)	Implementation of the above mentioned programs	DGCTC's personnel training programs was planned but not implemented.
1-4. Establishment of SIMEXCI (Mexican International Cooperation System)		
1)	Applying the developed database system for the SIMEXCI.	SIMEXCI was incorporated in SICOI. So far over 200 agencies related to the international development were registered in SICOI.
2)	Making a survey on Mexican international cooperation promoter organizations	
3)	Updating the Mexican international cooperation promoter organizations database	
1-5. Diffusion activities and joint activities with international cooperation promoter organizations		
1)	Preparation of diffusion materials	In cooperation with the Dept. of Bilateral Cooperation with Central America and the Caribbean Countries, a sample version of DGCTC's pamphlet is in preparation.
2)	Diffusion activities	The final seminar in February 2003 calls for more active participation of public institutions and municipalities related to Mexican international cooperation.

2. Assisting the Mexican South-South Cooperation Activities		
2-1. Reinforcement of JICA's south-south cooperation programs (third country expert program and International course programs)		
1)	Revisions of the JICA's south-south cooperation procedures	Implemented
2)	Personnel training oriented to related institutions such as DGCTC, Mexican embassies, representative organizations of international cooperation on the recipient side, JICA overseas offices, etc.	Implemented
3)	Analysis of and feedback from the current program procedure	Implemented
2-2. Japan-Mexico-Recipient country pilot project formulation and implementation		
1)	Selecting target fields and implementing institutions	7 projects in Nicaragua (agriculture), El Salvador (disaster measure), Honduras (fisheries and aquaculture), Costa Rica (energy development and environmental protection), Bolivia (education), Peru (environmental protection), and Cuba (1).
2)	Sending project identification and formulation study teams	Various study missions were sent to Nicaragua (2), El Salvador (2), Honduras (1), Costa Rica (1), Bolivia (1), Peru (1), and Cuba (1).
3)	Planning and implementation of pilot projects	Discussed and coordinated with long-term Japanese experts on a daily basis.
4)	Pilot project evaluation and impact analysis	Evaluation and impact analysis of pilot projects will be conducted when the projects are implemented.
5)	Revision of and feedback from the implemented pilot project formulation process	It is still in action.
6)	Exchanging views with other trilateral project promoting countries such as Argentina, Chile, and Brazil	Two (2) inspection missions (Chile and Argentina)
7)	Promotion of JP-MX trilateral project implementation mechanism	A seminar is expected to be held in Feb/2003.

ACHIEVEMENTS OF PROJECT OUTPUT

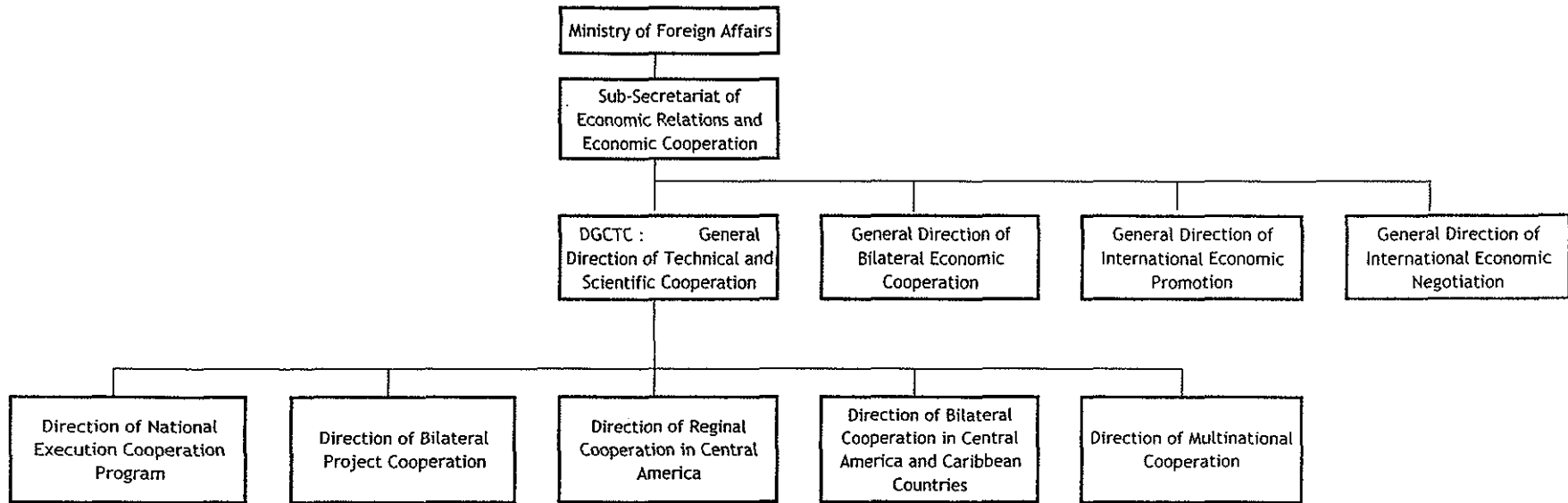
Narrative Summary	Indicators that can be verified	Result
<p>Overall Goal Mexico contributes to the development of Central America and Caribbean region through DGCTC.</p>		
<p>Project Purpose DGCTC's institutional capacity is strengthened and by extension of this, the South-South cooperation mechanism of Mexico is reinforced.</p>	<p>(1) Mexican embassies in Central America and the Caribbean will use a checklist, previously established to screen the proposed cooperation requests submitted to Mexican Government. (2) DCBCAC will take initiative to propose two (2) pilot trilateral projects to JICA by June 2003. (3) DCBCAC will conduct pre-evaluations by applying PCM method to the proposals submitted by the two joint meeting-commissions before June 2003. (4) DGCTC applies PCM method to screen the projects submitted by Mexican embassies in Central America and Caribbean. (5) DPEN will use the checklist to identify new courses for third countries. (6) DPEN will apply PCM method to design training courses for third countries.</p>	

Outputs		
1. DGCTC's institutional capacity is strengthened.		
1.1 Systematic Project planning, implementation, monitoring, and evaluation mechanism are created and applied.	1.1.1 Preparation of project applications, monitoring, and evaluation formats	1.1.1 The existing project application forms were revised and they have been actually utilized in the Central American and Caribbean bilateral cooperation programs. However, it was concluded in the CoCo meeting that the utilization of common formats in DGCTC was not feasible for some departments.
	1.1.2 Establishment of a PCM group, assignment of PCM group coordinator, and management of proposed projects by the check list	1.1.2 *A PCM group was established; with a total of five (5) officials as PCM group members in the beginning of Sep, 2002 *One (1) general coordinator for the Group was assigned. *The PCM group is still in the process of preparing the T/R of the group activities.
	1.1.3 Evaluation of JP-MX bilateral cooperation projects (at least one on-going project until the end of March, 2002) and evaluation of JP-MX trilateral cooperation project (at least one on-going project until the end of March, 2003) for Central America.	1.1.3 * One of JICAs' bilateral projects in Mexico was analyzed and evaluated. *JP-MX trilateral cooperation project is still under project formulation process. Thus the evaluation has not yet been conducted.
	1.1.4 The PCM group integrated with at least five DGCTCs' well-trained officials, act as moderator / trainer in PCM workshops and analyzes important projects.	1.1.4 *Currently two (2) DGCTC officials have gained the capability to become a PCM workshop moderator, two (2) become a PCM workshop co-moderator, and ten (11) had special trainings in Japan. *Four (4) workshops were conducted by the PCM group; and because the PCM group is still in the process of preparing the Terms of Reference, the projects have not been analyzed yet.
1.2. Database for project operation and administration are developed.	Database System Development	1.2-1.4 *The database system was developed, donated, and four (4) training workshops were implemented. However the database was not fully utilized by DGCTC. DGCTC developed a new database system (SICOI). The new database is still in the process of inputting individual data into the system. *The original concept of database was incorporated into SICOI.
1.3 DGCTC's staff is well capacitated by taking advantage of the proposed project administration mechanism combined with information technology (IT).	1.3. 1 The percentage of DGCTC officials that utilize the database (over 80%)	
	1.3.2 The percentage of projects registered in the database (over 80%)	
	1.3.3 The percentage of Mexican international cooperation promoter institutions involved (over 40%)	
1.4 The project will contribute to establishing SIMEXCI.	The percentage of Mexican institutions registered in the database (over 80%).	

Handwritten signature and initials in the bottom left corner of the page.

2. Mexican South-South cooperation mechanism is reinforced		
2.1 More efficient implementation of technology transfer program by Mexican experts is established.	The number of Mexican experts participated (over 30 experts).	Number of Mexican experts who were sent to Central America and Caribbean countries during FY1999 - 2002 (GOJ) 1998- 7 1999-19 2000-36 2001-22 2002-20 (expected to send 10 more)
2.2.A better mechanism of trilateral cooperation Japan-Mexico-recipient countries is established.	2.2.1 The number of trilateral pilot projects identified or formulated (over 5 projects)	2.2.1 Two (2) pilot projects were formulated and three (3) pilot projects were still in the process of formulation.
	2.2.2 Determination of JP-MX trilateral project implementation guideline	2.2.2 One (1) inspection mission was sent to Chile in order to observe the Chilean cooperation activities.
	2.2.3 The number of PDMs prepared (over 5 projects) and the number of projects monitored and evaluated (over 5 projects)	2.2.3 Two (2) PDMs were prepared (Nicaragua and El Salvador). These projects will be monitored and evaluated when they are implemented.

DGCTC's ORGANIZATIONAL CHART



LIST OF PCM WORKSHOPS AT DGCTC

No.	Date	# of participants	Type of Session	Observations
1	Apr/25/2001	UAM - XOCHIMILCO: 20	Planning half-day session	
2	Jun/05 - Jun/07/2001	IMEXCI: 13, JICA: 2	Planning session	
3	Jun/12 - Jun/14/2001	IMEXCI: 13, JICA: 1	Planning session	
4	Sep/04 - Sep/06/2001	IMEXCI: 5, JICA: 3	Planning session	
5	Dec/04 - Dec/06/2001	IMEXCI: 1, JICA: 2, Central government and others: 8	Planning session	
6	Feb/19 - Feb/21/2002	IMEXCI: 1, JICA: 1, INIFAP: 1, NGO-Casa Alianza: 6, NGO-Sierra Gorda: 2	Planning session	
7	Feb/27 - Mar/01/2002	Puebla State Government: 18	Planning session	
8	Apr/08 - Apr/12/2002	IMEXCI: 10, JICA: 4	Monitoring and evaluation session	
9	Apr/15 - Apr/19/2002	IMEXCI: 7, JICA: 2	Monitoring and evaluation session	Case study
10	Jun/19/2002	Central government and most of Mexican states: 55	Planning half-day session	
11	Nov/04 - Nov/06/2002	Tabasco State Government: 24	Planning session	
12	Nov/11 - Nov/14/2002	Argentine Government: 16, JICA:1	Planning session	

LIST OF JAPAN - MEXICO JOINT MISSIONS
(Project Identification and Formulation / Inspection)

Program	Period	Participants	Purpose
Nicaragua: JP:MX Joint Project Identification and Formulation Mission (Integrated plague control)			
1) Project Formulation Study + PDM Elaboration	Aug/19-Aug/26/2001	1 Japanese expert 1 IMEXCI official 1 Local consultant 1 Mexican expert 1 JICA MX official	Originally the Nicaraguan government has requested JICA to send a Mexican expert through JICA's third country expert program. As a result of discussions and coordination between JICA MX and JICA NI, this mission was sent and conducted a series of investigation, including PDM elaboration (draft version).
2) Project Planning Study	Jul/09-Jul/13/2002	1 Japanese expert 2 Mexican experts	The previously prepared PDM was revised and modified. In addition, a draft version of minutes including a project implementation plan was prepared. Furthermore, the present status of the equipments was examined.
3) Project Implementation (tentative)	Dec/2002-Feb/2003	2 Mexican experts	1 st phase
El Salvador: JP:MX-AR-CL Joint Project Identification and Formulation Mission (Disaster measures)			
1) Project Formulation Study + PDM Elaboration	Mar/20-Mar/28/2001	1 Japanese expert 1 IMEXCI official 2 Local consultants 2 Mexican experts 2 JICA MX officials	This was the first joint mission between IMEXCI and JICA. El Salvador had a severe damage by the earthquake occurred in February 2001. The study team determined that a number of houses were destroyed not only by the impact of the earthquake, but also inappropriate material for housing construction. This mission prepared a draft version of PDM.
2) Project Planning Study	Oct/08-Oct/10/2002	1 Japanese expert 1 JICA MX officials	By this study mission, a possible counterpart institution was re-confirmed.
Cuba: JP:MX Joint Project Identification Mission (Energy development and environmental protection)			
1) Project Identification Study	Feb/02-Feb/16/2002	2 Japanese experts 1 JICAMX official 1 IMEXCI official	The project identification activities were carried out in the fields of fisheries and aquaculture, environmental issues, and agriculture. One individual Japanese expert in brown issues joined in this mission.
Chile: JP:MX Joint Inspection Mission (Chilean International Cooperation - AGCI)			
1) Inspection Mission	Mar/31-Apr/03/2002	1 Japanese expert 2 JICAMX officials 2 IMEXCI officials	This mission was sent for the purpose of observing how the Chilean partnership activities are carried out and exchanging opinions with AGCI officials.
Honduras: JP:MX Joint Project Formulation Mission (Aquaculture and community development)			
1) Preliminary Study	Oct/27-Oct/02/2002	2 Japanese experts 3 Mexican experts	This cooperation is originated from the Mexican bilateral cooperation toward Honduras. This pre-feasibility mission was sent in order to determine counterpart organizations, a project site, the amount of input required, etc.
2) PDM Elaboration	Jan/2003 (Tentative)	-	-

Program	Period	Participants	Purpose
Costa Rica: JP-MX-AR-CL Joint Project Formulation Mission (Energy development and Environmental Protection)			
1) Preparatory Meeting in Mexico	Aug/13-Aug/16 /2002	4 Costa Rican experts 2 Mexican experts 1 Chilean expert 1 Argentine expert	This program intended to obtain a synergy effect by sending 4 experts from Mexico, Chile, and Argentine to Costa Rica. To do so, a preparatory meeting was held in Mexico in order to determine the orientation of this cooperation and the terms of reference for each expert.
2) Inspection Mission and Complementary Cooperation	Oct/27-Nov/09/2002	1 Japanese expert 2 Mexican experts 1 JICAMX official	3 experts (1 Chilean, 1 Mexican, and 1 Argentine) visited Costa Rica at the same time and conducted field studies. Plus, a joint seminar oriented to the government officials of related public institutions. In addition, 2 Mexican experts (hydrologist and sociologist) were sent in order to support the Mexican expert in the field of river basin control and protection.
Bolivia: JP-MX Joint Project Identification Mission (Distant Education and Mechanical engineering)			
1) Project Identification Study	May/28-Jun/01/2002	2 Mexican experts 1 IMEXCI official 2 Japanese experts	(Mechanical engineering) To identify a follow-up program of a third country expert program. (Distant education) To identify a follow-up program of a Mexican bilateral cooperation program.
Peru: JP-MX Joint Project Identification Mission (Environmental Protection - River engineering for Basin Protection)			
1) Project Identification Study	Jun/01-Jun/06/2002	2 Mexican experts 1 IMEXCI official 2 Japanese experts	To identify a JP-MX joint program in order to follow-up a previously implemented Mexican bilateral cooperation program.

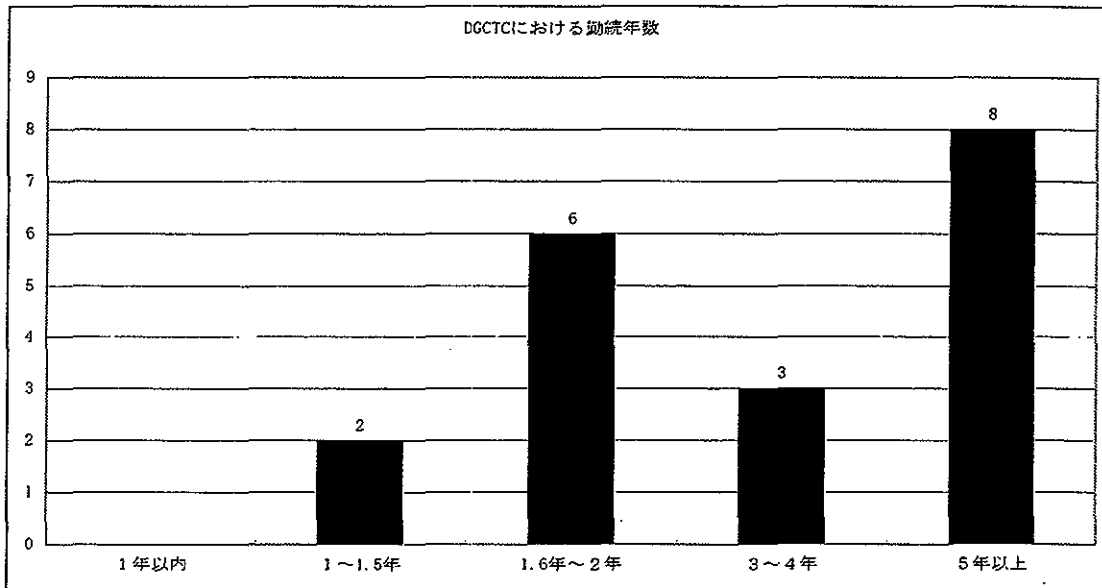
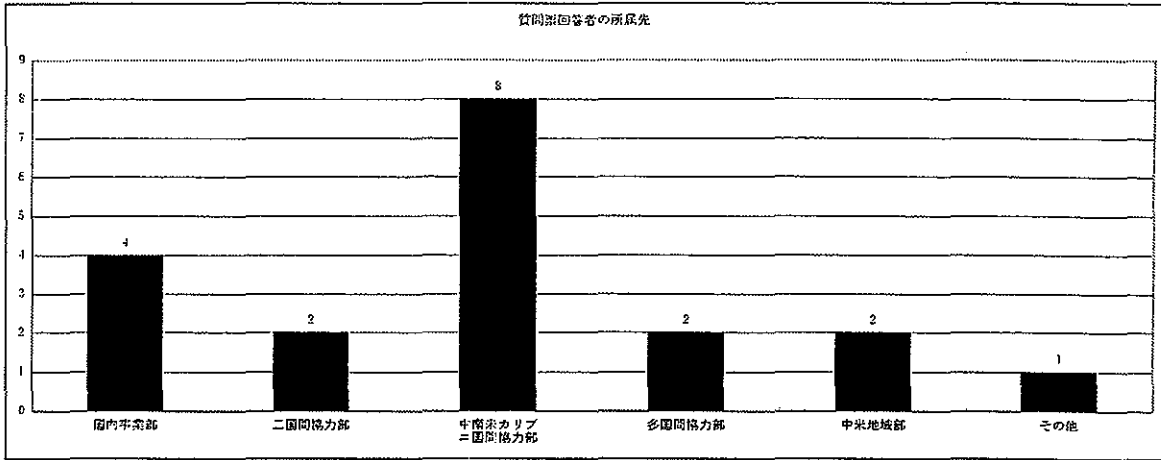
プロジェクト名: メキシコ南々協力強化支援計画 (PDM: 修正版) (v.2)	協力期間: 2000 年 7 月 1 日から 2003 年 6 月 30 日まで
対象地域: メキシコ、ラ米及びカリブ地域	ターゲットグループ: IMEXCI 職員、メキシコの国際協力関係機関、中南米・カリブ地域関係機関

作成日: 2001 年 7 月 1 日 (日本語版作成 2002 年 10 月 29 日)

プロジェクトの要約	指標	指標データ入手手段	外部条件
<p><上位目標></p> <p>メキシコ国が IMEXCI を通じて、中南米・カリブ地域の開発に寄与する</p>		IMEXCI のデータベース JICA メキシコ事務所の報告書	<ul style="list-style-type: none"> 当該地域の国々の国内事情が変化しない。
<p><プロジェクト目標></p> <p>IMEXCI の水平協力実施能力が強化される</p>		IMEXCI に対するアンケート調査 IMEXCI のデータベース	<ul style="list-style-type: none"> IMEXCI の中南米・カリブ諸国に対する関心が低下しない。
<p><成果></p> <p>1. IMEXCI の機能が強化される</p> <p>1.1. 国際協力プロジェクトの計画、運営、モニタリング・評価のシステムが確立され、それが活用される。</p> <p>1.2. プロジェクトの運営・管理のためのデータベースが構築される。</p> <p>1.3. 研修を受けた人員が上記 1.1 及び 1.2. の手段を使用する。</p> <p>1.4. プロジェクトが SIMEXCI の設立に貢献する。</p>	<p>1.1.1. プロジェクト要請書様式、チェックリスト様式、報告書様式、評価ガイドラインが作成される。</p> <p>1.1.2. プロジェクト総合調査官が PCM グループと共に指名され、要請されたプロジェクトがチェックリストを使って監理、確認される。</p> <p>1.1.3. 2002 年 3 月までに日本のメキシコに対する二国間協力プロジェクトが評価される。また、2002 年までに中米に対する日墨パイロットプロジェクトが評価される。</p> <p>1.1.4. 少なくとも 5 名の IMEXCI 職員が PCM グループを形成し、PCM ワークショップでモデレータを務め、また、PCM 手法研修で講師を務め、重要なプロジェクトの分析を行なう。</p> <p>1.2. 及び 1.3. 80% を超える IMEXCI 職員が日常業務にデータベースを利用する。</p> <p>1.3. 80% 以上のプロジェクトがシステムで管理される。</p> <p>1.4. 40 を超えるメキシコの国際協力実施機関が IMEXCI との連携関係を持っている。また、60 を超える機関が IMEXCI のデータベースに登録される。</p>	<p>1.1. から 1.1.4.: プロジェクト年次報告書</p> <p>1.3. 及び 2.: サーバーのトランザクション数</p>	<ul style="list-style-type: none"> メキシコ政府の国際協力予算が削減されない。
<p>2. 南々協力への支援体制が強化される</p> <p>2.1. 第三国専門家派遣と第三国研修が効率的に行なわれるシステムが確立される。</p> <p>2.2. 日墨第三国による三角包括プロジェクトの実施体制が確立される。</p>	<p>2.1. 毎年 30 件の第三国専門家派遣が行なわれる。</p> <p>2.2.1. 南々協力の枠組みにおいて包括パイロットプロジェクト 5 件が行なわれる。</p> <p>2.2.2. 包括パイロットプロジェクトの計画・実施ガイドラインが作成される。</p> <p>2.2.3. 包括プロジェクトの 5 件の PDM が作成され、モニタリング・評価に使われる。</p>	<p>2.1.: プロジェクトの年次報告書</p> <p>2.2.: 包括プロジェクトの実施件数、その PDM (プロジェクトの年次報告書)</p>	

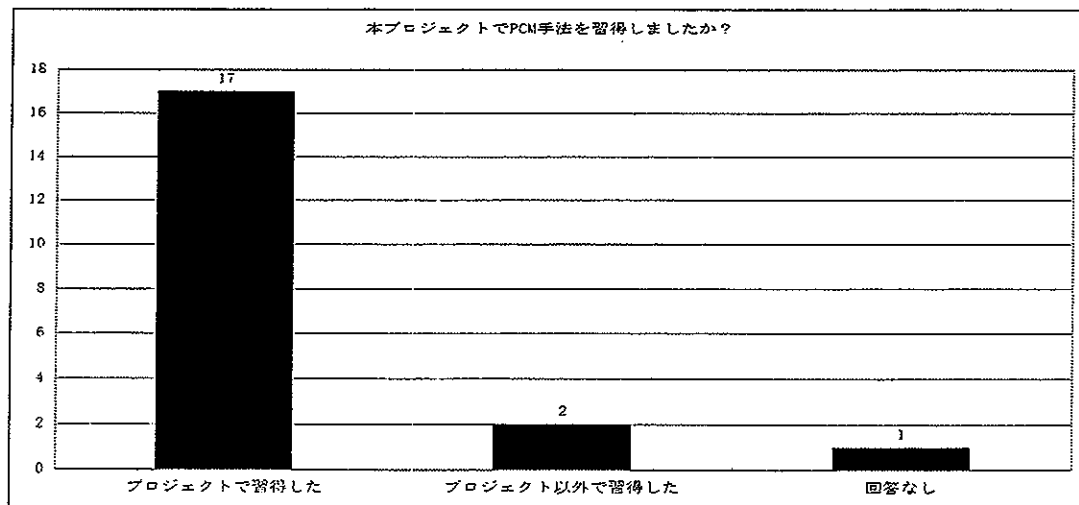
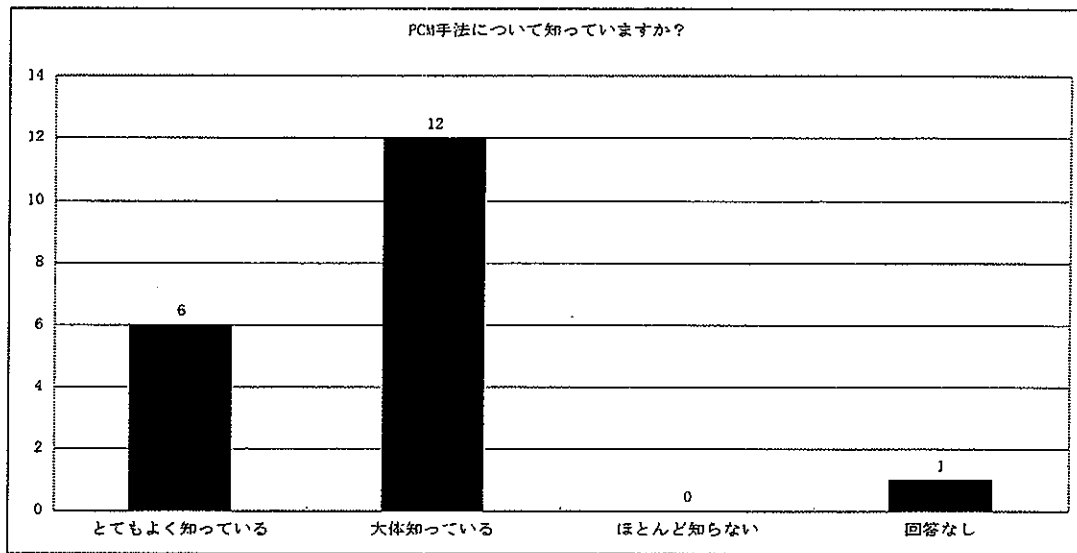
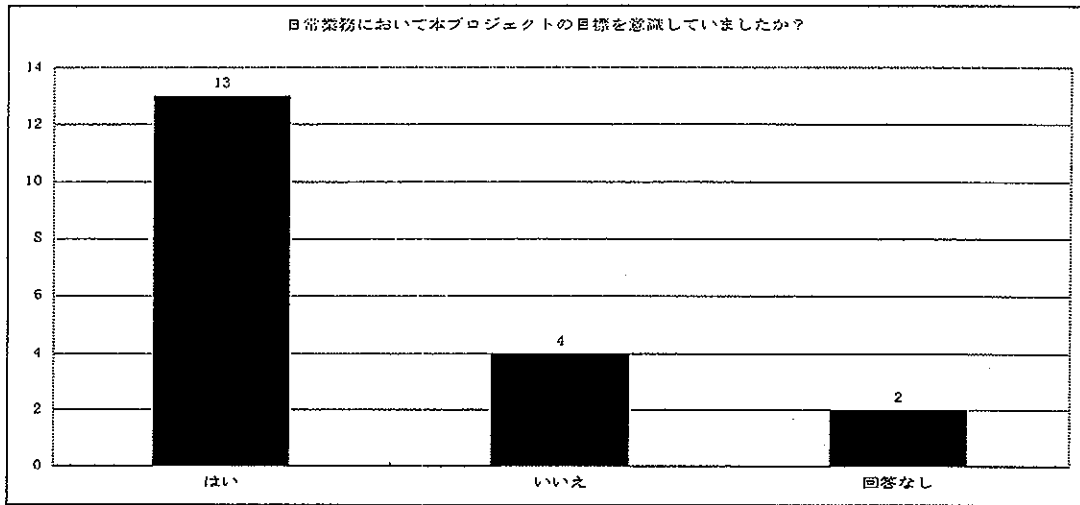
<活動>	投入		
	JICA	IMEXCI	
<p>[国際協力プロジェクトの計画、運営、モニタリング・評価システムの確立]</p> <p>1.1.1. PCM グループを設立し、そのW/Rを明確に定める。</p> <p>1.1.2. IMEXCI の実際の業務及び使用されている手法を分析し、様式を見直す。</p> <p>1.1.3. プロジェクト要請書の各種様式を作成する。</p> <p>1.1.4. 既存の様式・手続を新様式と比較し、また、可能な限り全 IMEXCI 共通の様式を作成する。</p> <p>1.1.5. 様々なタイプのプロジェクトの分析、評価手法を開発する。(関係分野からの提案を分析するためにPCMグループが管理するチェックリストを作成する。なお、これは当面の間中米カリブ協力部及び南米協力部を支援対象とする。)</p> <p>1.1.6. 国際協力政策・戦略、プロジェクト運営及びプロジェクトの評価手法についてのセミナー及びワークショップを開催する。</p> <p>1.1.7. 各種プロジェクトのモニタリング手法を開発する。(中米・カリブ協力部をパイロットとして実施する)</p> <p>1.1.8. プロジェクトの終了時、事後の評価手法を開発し、適用する。(中米・カリブ協力部をパイロットとして実施する)なお、2001年度はメキシコに対する日本のパイの協力プロジェクトを対象とする。また、2002年度は中米に対する日墨三角協力パイロットプロジェクトを対象とする。</p> <p>1.1.9. 上記に関する研修をIMEXCI職員、メキシコ大使館、プロジェクト実施機関を対象に実施する。(大使館及びメキシコの実施機関については中米カリブ協力部と共に実施する)</p> <p>1.1.10. システムにおいて得られた教訓をシステムの改善のためにフィードバックする。</p> <p>1.1.11. プロジェクトの年次報告書を作成する。</p> <p>[データベースの構築]</p> <p>1.2.1. データベースの機能を明確に定義する。</p> <p>1.2.2. 情報システム分野の技術者1名(常勤職員)、外務省情報部のアドバイザー、PCM及びデータベースについて十分な知識のある外務省職員から構成されるワーキンググループを形成し、データベースの開発管理、事後の運用管理及びメンテナンスを行なう。</p> <p>1.2.3. データベースを開発する。</p> <p>1.2.4. 国際協力プロジェクトの管理に関連するIMEXCIの職員研修を行なう。</p> <p>1.2.5. データベースの運営・管理マニュアルを作成する。</p> <p>[関係職員の能力強化]</p> <p>1.3.1. 関心のある分野についてのIMEXCI職員の研修を計画する。</p> <p>1.3.2. 国際協力の手続きに関連するIMEXCI職員の研修を行なう。</p> <p>[SIMEXCIメカニズムの開発]</p> <p>1.4.1. 国際協力の管理のためにデータベースを活用する。</p> <p>1.4.2. メキシコの国際協力機関に関するアンケートを作成しそれを使う。</p> <p>1.4.3. メキシコの国際協力機関に関するデータバンクを定期更新する。</p> <p>[広報普及・他の様々な社会セクターとの連携]</p> <p>[第三国集団研修・第三国専門家派遣の強化]</p> <p>2.1.1 各スキームについて適正な手続きを確立し、マニュアルとしてまとめる。</p> <p>2.1.2 IMEXCI、在外メキシコ公館、受入国窓口機関、在受入国JICA事務所関係者への研修行なう。</p> <p>2.1.3 上記プロセスを分析し、必要なアドバイスをなう。</p> <p>[包括的日墨パイロットプロジェクトの実施]</p> <p>2.2.1 最適分野及び実施機関を選別する。</p> <p>2.2.2 包括プロジェクトの確認・形成調査団を派遣する。</p> <p>2.2.3 この種のプロジェクトの実現に最適なメカニズムをデザインし、それを適用する。</p> <p>2.2.4 プロジェクトを評価し、そのインパクトを測る。</p> <p>2.2.5 上記のすべての過程を見直し、その結果をフィードバックする。</p> <p>2.2.6 他の三角協力実施機関との意見交換を行なう。</p> <p>2.2.7 包括的日墨三角協力の実施モデルの制度化について日墨両政府に提言する。</p>	<p>[専門家派遣]</p> <p>長期専門家(最低2名):</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際協力システム: 3年間 プロジェクト運営管理: 3年間 協力政策: 3年間 <p>短期専門家(年間平均4名、その他必要に応じ):</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報システム(データベース) プロジェクト評価 協力指標デザイン <p>[本邦研修受入]</p> <p>年間5名、国際協力実施監理</p> <p>[機材供与]</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修用機材(プロジェクター、コンピュータ他) データベース作成にかかる経費(全体の7割を分担) その他必要な機材類 <p>[ローカルコスト負担]</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修、セミナー、ワークショップ開催時の経費 プロジェクト形成、評価ミッション データベース作成のための経費 三角協力の個別案件及び包括パイロットプロジェクトの実施のための補完的経費 三角協力実施の他の機関との意見交換のための経費 その他 <p>[情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際協力関連分野に関する情報 <p>[第三国専門家派遣経費]</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間30名派遣のための予算(個別案件) 	<p>[職員]</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内事業部長(1) プロジェクト総合調整官(1) 研修担当調整官、データベース担当調整官、プロジェクト管理システム担当調整官 データベース監理担当技術者(常勤・正規職員) PCMグループ(研修後、PCMのモデレータ、講師になる) 南々協力担当IMEXCI職員 各種南々協力協力機関の専門家と職員 研修参加者 <p>[施設・機材]</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務スペース、必要な資料と機材 研修スペース プロジェクト運営におけるメキシコ関連機関にあるインフラ、資機材の利用 プロジェクト実施に必要な資機材 データベース作成に必要な経費(全体の3割を分担)(内15%は付加価値税、残り15%は経費) <p>[ローカルコスト負担]</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修、セミナー、ワークショップ開催時の経費 プロジェクト形成、評価ミッション メキシコによる国際協力パイロットプロジェクト実現のための経費 三角協力の個別案件及び包括パイロットプロジェクトの実施のための補完的経費 三角協力実施の他の機関との意見交換のための経費 その他 	<ul style="list-style-type: none"> 研修修了者が各機関に留まる。 プロジェクト関係者がプロジェクト外に移動しない。 SIMEXCI関係機関が国際協力参加についての決定を覆さない。 データベース維持に必要な予算、人員が確保される。 政権交代後も当プロジェクトに対するメキシコ政府の政策が維持される。 <p>前提条件</p> <p>IMEXCIは物品購入コストの15%を下回らない経費を負担する。</p>

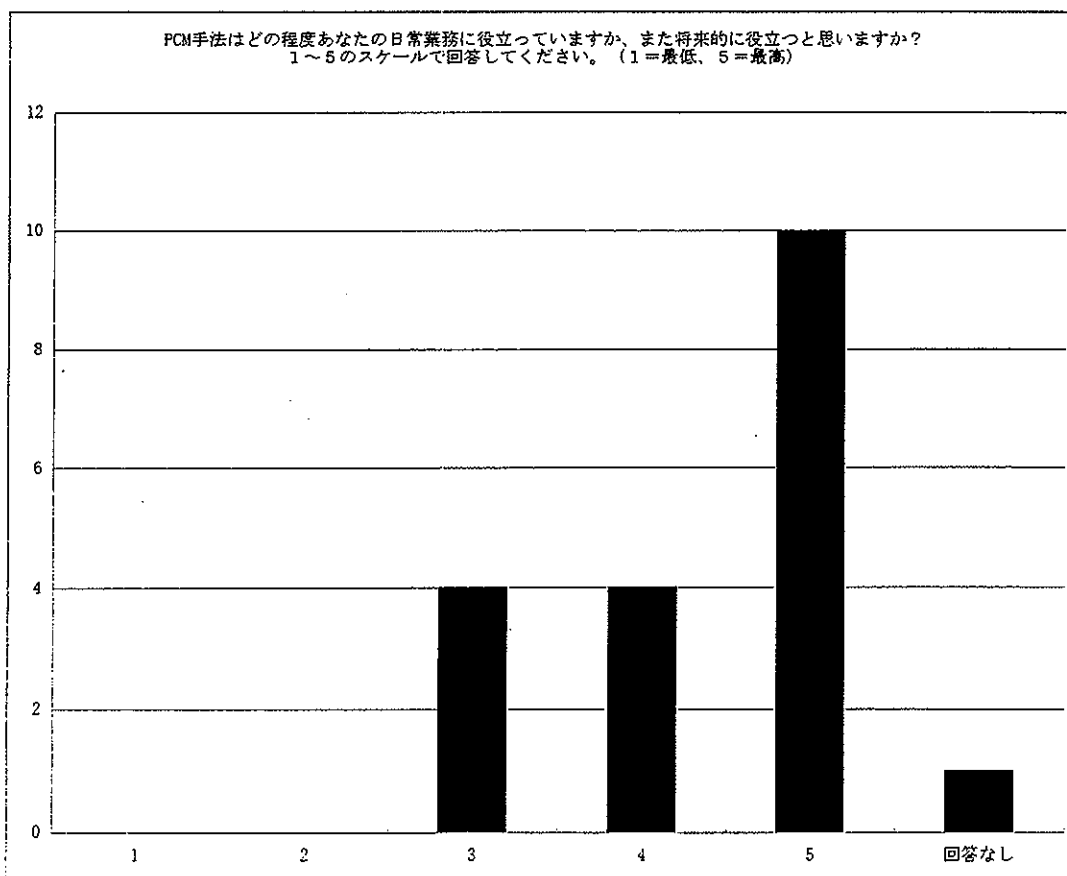
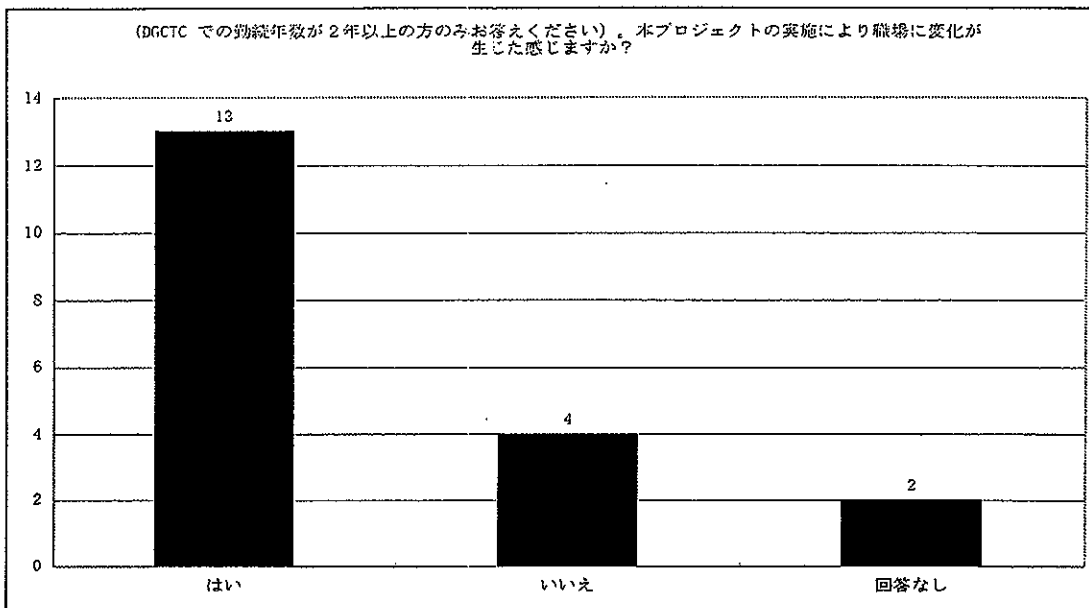
5. スタッフアンケート調査結果

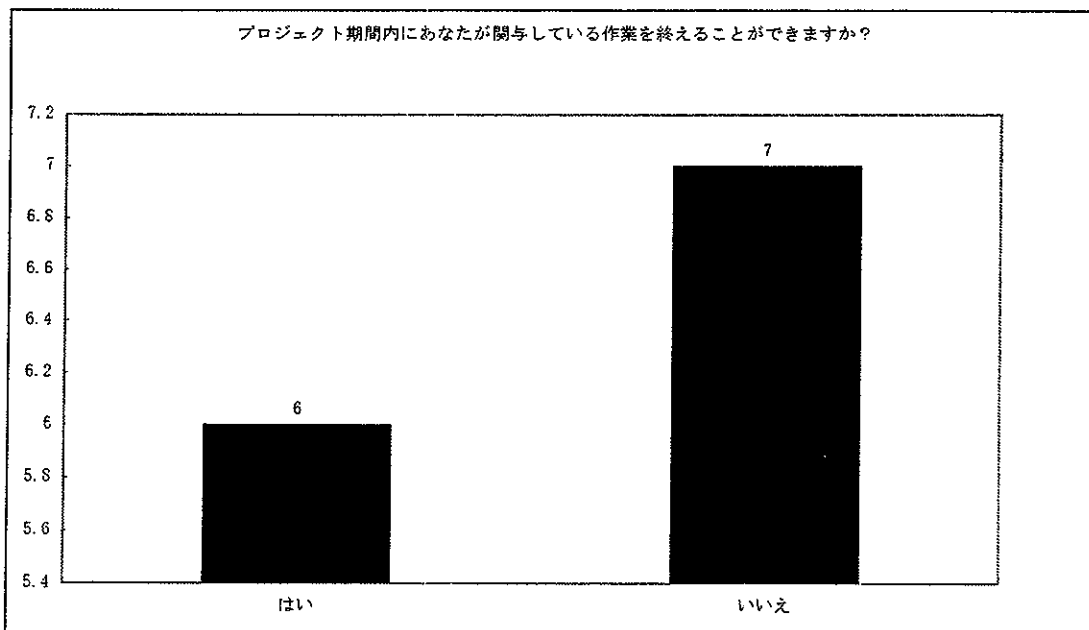
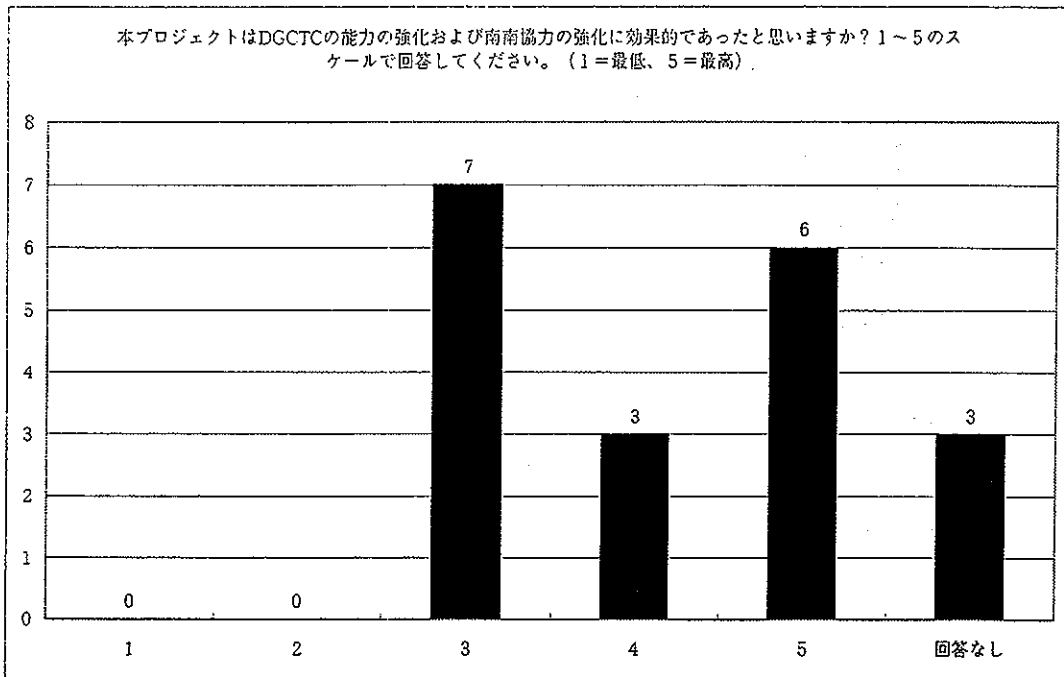


本プロジェクトにおいてあなたが関与した活動は何ですか？ (複数回答可)

活動名	国際協力プロジェクトの計画、運営、モニタリング・評価システムの確立	データベースの構築	関係職員の強化	SIMEXCIメカニズムの開発	広報普及・他の様々な社会セクターとの連携	第三国集団研修・第三国専門家派遣の強化	包括的日僕パイロットプロジェクトの実施
人数	13	6	0	6	1	7	19







6. その他参考となるデータ

1) 部署別職員数

部署名		Programa de Cooperación de Ejecución Nacional	Cooperación y Proyectos Bilateral	Cooperación Regional Centroamerica	Cooperación bilateral con Centroamerica y el Caribe	Cooperación Multinational	Total
年度別職員数	1999	12	6	4	7	7	36
	2000	10	6	4	7	6	33
	2001	7	6	4	10	5	32
	2002	8	6	3	11	6	34
	2003 (予測値)	9	6	4	11	6	36

2) 本プロジェクトでPCM研修を受講した職員数 (部署別)

部署名		Programa de Cooperación de Ejecución Nacional	Cooperación y Proyectos Bilateral	Cooperación Regional Centroamerica	Cooperación bilateral con Centroamerica y el Caribe	Cooperación Multinational	Total
年度別職員数	1999	0	0	1	0	0	1
	2000	0	0	2	0	0	2
	2001	7	2	2	6	3	20
	2002	7	2	1	10	0	20
	2003 (予測値)	7	0	0	0	0	7
							50

3) 要請案件数

	2000		2001		2002		2003 (予測値)	
	Project	Activities	Project	Activities	Project	Activities	Project	Activities
要請されたプロジェクト及び活動案件数	263	296	290	357	265	358	208	289

4) 国別承認案件数

国名	2000		2001		2002		2003 (予測値)	
	Project	Activities	Project	Activities	Project	Activities	Project	Activities
Belize	5	8	5	5	6	26	7	7
Costa Rica	36	58	46	68	46	83	50	80
El Salvador	8	10	14	18	14	18	26	33
Guatemala	31	40	48	36	48	55	40	50
Honduras	18	29	18	22	13	18	9	18
Nicaragua	25	36	27	39	27	38	18	26
Panama	29	29	29	34	31	36	31	36
Central American Region								
Caribbean (Bilateral)	17	17	9	9	18	18	20	20
Others								

5) 国別実施件数

国名	2000		2001		2002		2003 (予測値)	
	Project	Activities	Project	Activities	Project	Activities	Project	Activities
Belize	1	4	2	2	4	21	6	6
Costa Rica	42	58	43	68	60	83	40	55
El Salvador	14	13	6	8	14	18	16	20
Guatemala	31	47	25	36	33	42	30	40
Honduras	17	29	10	14	9	19	10	18
Nicaragua	34	49	27	35	23	33	15	30
Panama	16	16	13	18	23	28	20	27
Caribbean (Bilateral)	14	14	9	10	17	18	20	22
Others								

7. 協議議事録

日時：2002年12月5日（木）10:00～11:30

場所：IMEXCI 15F

出席者：メキシコ JICA 事務所：安藤次長、大和田様、Guerrero 様

IMEXCI：Backmeister Gudino,(Asesor), Regalado Jimenez(Sbudirector de Cooperacion Bilateral), Gonzalez Aguirre (Directora de Cooperacion Bilateral), Angel Ramirez (Subdirector de Convenios y Programas), Ruiz Ruiz (Directora de Programas de Cooperacion de Ejecucion Nacional), Sirnes Mancera (Subdirector de Cooperacion Reginal de Centro America)

専門家：榎下専門家、長町専門家、菊池専門家

調査団：シーク美実

通訳：橋本様

議題：第1回合同評価

1) 評価デザイン

- ・評価の目的、方法について説明したところ参加者より合意を得た。
- ・スタッフに対する無記名のアンケート調査を説明、依頼したところ、国内事業部の Ruiz 氏より本アンケートの評価における位置付けに関する質問があり、回答した。
- ・また、Ruiz 氏よりこれまで学習してきた評価の知識を深めるため、本件調査の評価デザインについて勉強したいとの意見があった。当方としては、本件評価調査には時間的制約があり、評価調査の詳細についての説明は困難であるが、良い機会ではあるので長町専門家と相談しつつこれについてアレンジしたい旨伝え、了解を得た。長町専門家と協議した結果、明日以降、ヒアリング終了後において評価グループを集め、1時間程度の評価デザインに関するディスカッションを行うことを予定している（細かい説明はする予定でない）。
- ・本件評価では、2001年7月に改訂された PDM をそのまま PDMe として活用したい旨説明したところ、長町専門家よりプロジェクト目標に指標がない中で如何にプロジェクト目標の達成度を測るのかとの指摘を受けた。IMEXCI 側との協議の結果、残り6ヶ月の間だけでもプロジェクト目標に指標を入れることは意義があるとして、IMEXCI 側、シーク、長町専門家が共同で指標を検討していくことで合意した。12月9日（月）午後15時30分に再度本日の参加者が集結し、各自の案を基に指標を決定する。

2) 今後の予定

- ・Backmeister 氏は6日（金）から9日まで（月）不在となるため、9日の会議には出席が不可能。代理を立てることで合意した。代理は、Lozano 局長と協議の上、大和田氏に連絡する。
- ・本日不在となった中米カリブニ国間協力部、多国間協力部の本件評価調査への参画および面談を強く希望したところ、両部長は現在極めて多忙との連絡を受けているため確約はできないが調整を試みることで合意した。（会議後、Backmeister 氏へのヒアリングの際に、両部長へのヒアリングは本件プロジェクト評価において必要不可欠である旨説明した。また、ヒア

リングが不可能な場合、専門家からの報告のみで判断することになる旨も伝えた。結局、調整を試みたものの、両部長はヒアリングに応じるかどうかは、Lozano 局長の判断に委ねたいとして面談を拒絶。Backmeister 氏が今晚中に Lozano 局長の自宅に電話を入れ、状況を説明し、明朝 Lozano 氏の秘書より大和田氏に結果を回答することとなった。）

・調査スケジュール：

5日／11時45分～Backmeister 氏、15時～Sirnes Mancera 氏 (Subdirector de Cooperacion Reginal de Centro America)へのヒアリング

6日／10時～Gonzalez Aguirre (Directora de Cooperacion Bilateral)、12時～Ruiz Ruiz (Directora de Programas de Cooperacion de Ejecucion Nacional)へのヒアリング。

9日／15時30～プロジェクト目標の指標設定（関係者全員）

10日／フォーカスグループディスカッション、追加ヒアリング（適宜）

以上

日時：12月9日

場所：科学技術協力局会議室

内容：ロサノ局長協議

出席者：メキシコ側 外務省科学技術協力局 (DGCTyC*) Lozano 局長 *旧 IMEXCI
 同上 国内事業部 Cristina 部長、Efrain 課長
 同上 中米カリブ二国間協力部 Sonia 部長
 同上 多国間協力部 Velazquez 部長 (途中退席)、Uribe 課長
 同上 中米地域協力部 Gabriel Sirne 課長
 日本側 調査団 3名
 事務所 河合所長、安藤次長、大和田所員
 プロジェクト専門家 3名

1. 評価目的の説明 (対処方針通り、今回評価の目的及び評価5項目について説明)

(団長)

墨ではすでに独自の南南協力の経験があり、必ずしも日本のやり方が全てうまく使えるとは限らない。従ってプロジェクトが全てうまくいったとは思えず、失敗もあったことと考える。今回の評価では、失敗をネガティブにとらえるのではなく、その原因を両者で共有し、今後活かすこととしたい。そのための率直な意見交換を行いたい。失敗から謙虚に学ぶべきと考える。

(局長) プロジェクト成果、うまくいかなかった点は双方に起因するものとして、双方で評価したい。

(この後、評価手法、日程について調査団側から説明し、墨側の了解を得た。)

2. プロジェクト全般への総合的なコメント

(団長)

目標達成の障害となったネガティブな点として以下4点を指摘したい。

(1) 旧 IMEXCI 組織改編

(2) 局長の交代

旧 IMEXCI 5 部門の共通認識の欠如が顕著であり、各部の事情により、プロジェクト活動への対応が異なった。

(3) 本邦研修参加者の帰国後定着率の低さ

過去3年間に参加した15名のうち、5名しか定着していない。今年度参加の5名については、現職への定着と活躍を期待する。

(4) データベース (DB) のアップグレード

日本の協力で作成した DB はどうなったのか。

またプロジェクト活動の成果としてポジティブに評価する点を2点指摘。

(1) PCM グループの立ち上げ

PCM 研修の実施により、組織に PCM 手法が根付きつつある。今後は PCM グループの組織内でのマニフェストを明らかにし、如何に自立発展なものにするかが重要。PCM グループの構成員が、個人のレベルではなく、組織対応で PCM グループに関与することが必要。今後、局内または外部関係機関に対して、PCM 手法をどのように普及させるのが重要。

(2) パイロットプロジェクトの立ち上げ

今回の墨訪問の直前にニカラグア日墨連携三角案件の視察を行ったが、ニカラグア側 UAM レオン大学からは、すでに派遣済みのメキシコ人専門家に対して、高い技術評価がなされている。

(局長)

フランクな意見をさせていただく。

(1) 組織改編のインパクト

日本側の懸念はごもつともであるが、墨では 2001 年に政権交替があり、その後人事異動の波が起こった。このような政権交替による影響は DGCTyC のレベルを超えた話であり、当方としては如何ともしがたい。この結果、DGCTyC と日本人専門家の間でブランクが生じてしまったと考えるが、プロジェクトの継続性確保のために、プロジェクト専用の調整官（バックマスター調整官を指す）を配置することとした。今後段階的に DGCTyC と専門家の関係を良好なものとしたい。

(2) 5 部局の対応の違いについて

墨は、国際協力に関して、受益国、水平協力参加国およびドナー国、という 3 つの顔を持っている。DGCTyC 内の各部も各々このような 3 つのカテゴリーの性格を有しながら、国際協力に関与している。各部の有するカテゴリーの性格により、本プロジェクトへの対応が各部ごとに異なると考える。

(3) 定着率の低さについて

今年参加までの 20 名中、11 名が現在も職場にとどまっている。残りの内、5 名は DGCTyC を離れたが、何らかの国際協力に関係している。今後は PCM 手法が永続的な手法として、定着することを期待。ただし、外交官であれば、転勤もありえ、人事ローテーションでやむをえない異動もあったし、また職業選択は個人の自由であり、残念ながら組織として帰国後の勤続を義務付けることはできない。研修員の人選については、慎重に行った。

(4) DB について

プロジェクト調整会議など、様々なレベルで日本側と議論してきた。JICA が作成・供与した DB が使用されなかった理由は、技術的なものであったと承知。新しい DB (SICOI) では、データ管理だけではなく、PCM 手法を利用して案件管理もできるものとなっており、より DGCTyC のニーズに合致したものとなった。

(5) 職員研修

DGCTyC 側の手続きの遅れ、JICA 側の問題により実施されなかった。

また、成果のあった2点について述べる。

(1) PCM手法の国内外への普及

プロジェクトでPCM手法を学んだDGCTyC職員が、モデレーターとなり、国内外の関係者（国際協力に関与する関係機関、在中米地域の墨大使館員など）に普及させていきたい。またSICOIシステムを活用したい。

(2) パイロットプロジェクト形成

ニカラグアの案件について言えば、墨側の具体的な協力内容については、文書で明確化した。具体的な投入としては、墨での研修実施、墨人専門家の派遣である。このようにプロジェクトに対しては、旅費負担というような経費負担だけでなく、墨人専門家の知識も無形ながら寄与していると考えられる。墨としては、プロジェクトの成果がでるまでは、経費負担を伴う財政的な協力の実施は難しい。

またパイロットプロジェクトの次の段階での日本の協力の内容を知りたい。

3. 南南協力の今後の見通し

(団長)

フェーズIIはないものと考えており、プロジェクトの残余期間6ヶ月での最善の努力をお願いしたい。またプロジェクト終了後、墨側の南南協力の方向性、日本との連携について伺いたい。

(局長)

インフォーマルな個人的な意見だが、プロジェクトの1年延長を正式に要請したいと考えている。ただし以下の2点に集中して活動実施すべきと考える。

(1) PCM研修（プロジェクト評価・モニタリング）

昨年度の岡田短期専門家により、初歩の評価手法は技術移転を受けたが、まだ十分ではなく、豊富な経験を有するJICAからさらに技術移転を受けたい。

(2) パイロットプロジェクトから包括的な協力の実施に移行

包括的な協力の実施により、今後の中米カリブにおける協力をどのように行うべきか、方向付けることができる。またより効果的にプロジェクトを実施したい。

具体的には下記4つの重点分野を想定しており、墨側が優れた人材を有し、日本との連携の経験もある。

(1)保健分野（感染症、ベクター感染）、(2)漁業、(3)流域管理、(4)防災。

(団長)

包括的な協力とはパートナーシッププロジェクト（PP）を想定しているのか。第3国専門家・研修をさらに発展させ、南南協力を推進するためには、墨側が人員・予算を確保する必要がある。

(局長)

チリのPPについて関連文書等にも目を通し承知しているが、当方はそこまで想定しておらず、日墨間でもう少し、プロジェクト連携の経験を積むべきではないだろうか。チリでのPP文書中には墨の南南協力

の現状に必ずしも適さない部分もある。また DGCTyC では、小額基金はあるが、法により専門家派遣以外には使うことができない。また予算の更なる確保については、当方は権限を持たない。

(団長)

IMEXCI という外庁体制から局への「格下げ」は、墨の南南協力の方向性に影響を与えるのか。

(局長)

ネガティブな影響は全くない。むしろ IMEXCI が抱えていた様々な文化交流や OECD 関連事業が別部局に移行され、技術協力を集中できる体制が整ったと考える。また専門家派遣の予算についても微増している。

以上

日時：12月9日16時30分から約40分

場所：大使館

内容：大使表敬

出席者：大使館 堀村大使、藤村公使、大森参事官、石川書記官

調査団 3名

JICA 事務所 河合所長、安藤次長、大和田所員

1. 中南米地域に対する JICA 事業概要、南南協力について

(団長)

厳しい ODA 予算の現状の中で、外務省からの JICA への国別予算配分の指示によれば、中南米地域に対する平成15年度予算は前年度比18%の減少である。(アジア地域については、0.4%の増加。)このような予算の厳しい状況の中で JICA 中南米部では新規案件には約4億円程度しか投入できない。したがって新規案件の形成については、相当なメリハリをつけ、中南米地域への協力の特色を打ち出していく必要がある。その中で南米参加国チリ、アルゼンティン、ブラジルではパートナーシッププログラム(PP)を締結し、南南協力を推進している。

墨でも南南協力支援を目的として、本プロジェクトを開始したが、今後は南南協力に切り替えていく流れと考える。しかしながら本プロジェクトが当初想定された目標・成果を十分達成したとは考えておらず、問題点も多く、今回しっかりと評価を行う。

墨における南南協力、日本との連携について、まずは大使のお考えを伺い、明後日(11日)のハキム次官表敬の際に、墨側の意向を問うこととしたい。

(大使)

南南協力については、墨・受益国・日本財務当局の三者の観点から良く検討する必要がある。墨については、日本のパイの協力全般が国内で知られておらず、政治的な効果が疑問。地方の案件はその地域では知られており、日本の協力に感謝が表明されるが、中央政府関係者の間では知られていない。教育分野などで、日本の協力をアピールしていくことが重要ではないか。受益国については感謝されているのか不明。日本財務当局については、逆に JICA がどのように南南協力推進を主張してきているのかを伺いたい。

(団長)

南南協力推進にあたっては、日系人の活用、日本人専門家よりも経費が安く、効果的・効率的な協力が実施できる点、および過去の日本の協力の成果・拠点の活用、という点を主張している。

2. 南南協力における日本のプレゼンスについて

(大使)

南南協力については、また日本のプレゼンスを示すことができるのか、顔の見える援助については如

何。

(団長)

ニカラグアでの三角協力案件について言えば、日本の最近の見返り資金により建設された生物防除のラボを拠点としており、既に日本のプレゼンスは存在する。そこに十分な専門性を有する墨人専門家を連携させている。またチリとの PP においては、日本の投入がなくても、日・チリ連携がチリ側により、大変うまくアピールされている。またヨネブグでサミットにおいても、チリ国際協力庁長官が日チリ PP をアピールしていた。顔が見えるかどうかは、PP の中でも計画委員会があり、当方のイニシアティブでリードしていけばよいのではないかと考える。

(大使)

PP 相手国側によるアピールにより、日本のプレゼンスが確保されるという面もあるだろうが、本来は日本がしっかり、独自に広報アピールをすべき。

3. 墨との PP 締結について

(大使)

日本との PP 締結については、墨側はやりたいというであろう。ただし、日本の主体性の確保を図らないと、墨側に乗っ取られてしまう。日本側が、現場および東京サイドの連携を密にして、仕切り、日本側のリードで PP が実施されることが重要。

(公使)

IMEXCI は、外務省の中で政治的な力をつけるためにも、南南協力を飛びついてくるだろう。最近ではプエブラパナマ計画の事務局も大統領府から、外務省内に移行してきている。

(団長)

墨とのパイの協力は、事業規模で 20 億円を割り込むぐらいに縮小してきている。このまま事業規模が縮小し続けるのであれば、現在 6 名派遣職員が駐在する JICA 事務所の体制も見直さなければいけない。そうなれば JICA 事務所と大使館の関係がどうなるのか。独立行政法人化する JICA としては、自ら責任を問われることにもなる。墨との協力においては、南南協力を中核にすえ、事業規模の現状維持を図るべきではないか。このような観点から、今回の墨側との協議においては、PP とは言明しないが、日本との連携についてどのように考えるのか、墨側に問いたい。

(大使)

JICA 側の事情もよく理解でき、そのような背景であれば、南南協力について墨側と大いに議論していただいて構わない。ただし、過去の失敗例もあり、日墨で三角協力をを行う場合、政治的なインプリケーションあるものについては、十分な注意を払い、事前に大使館に相談して欲しい。三角協力で日本が参加することで発生する政治的な意味合いには敏感でいるべきで、外交ツールでもあることを理解して欲しい。

以上

日時：12月10日10時から11時

場所：国立防災センター（CENAPRED）

内容：表敬

出席者：CENAPRED 側 Dr. Carlos Reyes Salinas 建築・地質工学チーム 主任

Dr. Oscar Lopez Batiz 建築・地質工学チーム 研究員

日本側 調査団 2名、事務所 大和田所員

1. 「エルサル耐震建築」三角協力プロジェクト

第三国専門家としてエルサルに派遣され、帰国直後の Oscar 氏から標記プロジェクトの概要について説明を受けた(詳細については派遣中の上之菌専門家がエルサルからの帰路、墨立ち寄りの際(12・13日)に墨事務所へ報告ある予定)。

耐震性に優れた家屋のタイプとして、現在 FUNDASAR は10タイプ、住宅省は40タイプを有する。家屋は一般的な農村家庭用を想定。レンガ、アドベ、セメント、泥、粗石など建材は多様。プロジェクトにおいては、これらの50タイプの中から5～6タイプを選び、家屋の耐性を検査し、独自の建築基準を作る(現在、粗石家屋についてはペルー基準、セメント家屋についてはメキシコ基準が存在)。これにより一定の耐性を維持しつつ、低コストで家屋の建設が可能となる。現在一般的な家屋の建築(36㎡)に2000ドル要しているが、300ドルで可能になる。

2. プロジェクト活動計画

(1) 中米大学にラボを設計・建設

墨・日が設計・建設を監督、建設はエルサル。約1年後に建設が終了する見込みで、その後、反力床・壁、機材の経費を日本が負担。

(2) ラボ及び機材の使用法指導

ラボ建設に平行して、墨がエルサル人の研修受入れ(2名)。5～6タイプの家屋モデルの耐震検査実施。1モデルの検査に1500から2000ドル必要であるが、これについてはエルサルの負担。ただしエルサル墨大使館からオファーの可能性あり。

3. PDM を用いたプロジェクトの実施について

技術者レベルではPDMの作成については、知識がなく、完成したPDMで全体計画を把握している程度。Carlos氏はIMEXCIのPCM研修に参加したことがあるとのことだが、研修が長期間にわたるため、CENAPRED技術者が参加するのは困難とのこと。

三角協力のPDMにおいては活動を誰の経費負担で、誰が実施するのか、責任の所在を明確にする必要がある。ラボの設計建築を誰が行うのかを明示しなかったために途中混乱した。またPDMの管理、モニタリングはエルサルのプロジェクト責任者(住宅省次官)が責任を負うべき。

4. IMEXCI の役割

窓口調整機関であり、CENAPREDのような専門機関がもたない外部とのコンタクト役として不可欠。

日時：12月10日12時～13時30分

場所：国立環境研究研修センター（CENICA）

内容：表敬

出席者：CENICA側 Victor Javier Gutierrez Avedoy 所長

Aloma Delia Nava Secretaria Particular

山本専門家

日本側 調査団 2名、事務所 大和田所員

1. 中米地域の拠点センター化

環境天然資源省国際部において、CENICAの南南協力のための戦略作りを行っている。そのためには中米地域のニーズ及びCENICAのキャパシティの把握が重要。

POPs（有機廃棄物）に関する地域専門機関となるべく、JICAからの協力を要請したいと考えている。POPs分析には高価な機材が必要であり、中米諸国が保有するのは困難。CENICAで各国のサンプルを分析できるようになりたい。

2. 国際協力実施状況

最近ではパナマ・コロンビアに大気モニタリングの技術指導、ボリビアに環境分析の指導、またJICAとの協力で固体有害廃棄物の管理に関する第3国研修を実施予定。

またPAHO,チリのCENMA、CENICAの三者で、合意文書に署名*し、大気質AirQualityに関するDiplomaコースを実施予定。メキシコおよびチリにて実施する。大気汚染の分析、人体への影響などが内容となる。CENMAについては、CENICAと同時期に日本とのプロジェクトが終了し、同様に南南協力を開始することから、今後の連携について協議の必要があると考えていた。（*事務所注：IMEXCI 国内部、マルチ部、南米部を交えて、CENICA、CENMAで協議し、署名した）

キューバについても大気汚染関連（オゾンなど）の協力を非公式で行っており、メキシコ市から機材供与も行われた。

NAFTAの関係で、アメリカ・カナダとの間で墨が行う、環境モニタリング評価委員会、ダイオキシン・フロン委員会の墨側代表を務めている（CENICA所長）。またストックホルム協定に基づく有害廃棄物分析についてもCENICAが行っている。

3. CENICAの経済的自立

国際協力の枠組みを拡張するためにも、資金源確保は重要課題。POPs対策においては、世銀資金を得ている。またCENICAの有するラボでの分析サービスの有料化も行っている。ただし、CENICAが属する環境庁（INE）の下では、有料化できないので、現在は、（CENICAがその敷地内にある）メトロポリタン自治大学UAM経由で有料サービスを実施している。将来的には、分権化（独立行政法人化と思われる）を行い、INEからの独立性を確保し、独自に有料サービスを行うようにしたい。そうすれば、ラボ有料化だけでなく、独自の給料体系も導入でき、優秀な研究員を雇い続けることができる。

以上

会議議事録

平成14年12月11日

メキシコ事務所

(担当：安藤)

会議名	南南協力支援強化プロジェクト終了時評価調査に係るハキム次官表敬
日時	平成14年12月11日 10:00～10:30
場所	外務省ハキム次官執務室
出席者	日本側：川路団長、大森参事官、河合所長、安藤、橋本（通訳） 墨側： 外務省ハキム次官、外務省科学技術協力局 ロサノ局長

冒頭、ハキム次官より、JICAからは様々なレベルにおいて協力をいただいております重要であるとの謝意が表明されるとともに、メキシコ政府は協力を受けるばかりでなく、中米・カリブ地域に対する協力も行いつつあるところ、今後とも協力を願いたい旨述べられた。

ハキム次官は、本年11月18日から行われた、日墨間の自由貿易協定に関する第一回政府間交渉において通商・投資のみが扱われたが、“協力”に関してもテーマとすべきである、日本側は外務省が重要なキーパーソンとなっているが、墨側は経済省が交渉トップとなっているところ、“協力”に関しても合意項目の一つとするよう、働きかけていきたいとした。

川路団長より、次官の挨拶に対して返礼するとともに、1. 調査団派遣の目的の説明、2. 中米カリブ諸国に対する協力の方針をハキム次官に質した。なお調査団派遣目的の説明概要次のとおり。

調査団派遣の目的は、2000年7月から3カ年の予定で開始された南南協力強化支援プロジェクトの今までの成果、目標達成度をメキシコ側と評価し、今後の提言をすること。評価に当たっては、プラス面に加えてマイナス面からの教訓を引き出したい。明日メキシコ側との合同評価を経て、ミニッツに署名予定。

また成果は次の二点と考えている。

1. プロジェクト管理の手法がメキシコ側に移転されつつあること。

日墨一緒にニカラグア、エルサルバドル、ホンデュラス、コスタ・リカでパイロットプロジェクトを立ち上げつつある。この実践がハキム次官の述べたことに繋がる。

2. メキシコは JICA の協力を通じて人材育成を図ってきた。メキシコはニュードナーとしてこれらの資産を活用願いたい。

川路団長の質問に対するハキム次官の回答は次のとおり。

フォックス政権の対中米に対する新しい政策としては、PPPになる。PPPは南北の開発格差を是正するのと併せて、中米における道路、港湾、空港などのインフラ整備、及び社会開発、人材開発、環境保全なども行うものである。JICAとは、メソアメリカ地域を対象にこの人材開発などについて一緒に協力をしていきたい。日墨双方でどのような協力が可能かは、ロサノ局長のイニシアチブによる。通商・投資が米国に集中しすぎている状況を多様化したい。

日墨が協力して、南南協力支援プロジェクトの評価においては、良い面だけでなく悪い面にも目を向けている点は評価できる。また付加価値税（IVA）の問題、プロジェクトのデータベースが完成していない点なども承知している。

日本はメキシコにとっての主要ドナーであるが、モンテレイにおける開発資金国際会議の際に、米国や欧州が援助の増額を表明する中、日本は減少傾向にあるが、これを増額するように希望している。

自由貿易協定において、日墨の協力が正式に反映されるべく、墨外務省として経済省に働きかけるも、日本側からも働きかけてほしい。

これに対して、川路団長よりJICAは技術協力のみを担当する実施機関であるので、次官の発言内容は、大使館、外務省等へ伝える旨述べた。

ハキム次官より、IMEXCIは外務省の一部局とはなったものの、本質的には変わっておらず、むしろ協力を受けるだけでなく、与える立場になり、組織としての勢いがつき、予算についても十分とはいえないが増額された。このような理念を持つに至ったのもJICAのおかげである旨述べた。

最後に川路団長より、ハキム次官の指摘された点に関しては、ロサノ局長との協議及び日常の業務を通して行っていきたく、また、協議が合意されるよう希望する旨述べ、会談が終了した。

以上

JICA